



社会福祉法人なごみの郷

就労支援センターつばさ
グループホームなごみ
グループホーム弥生荘
ホームヘルプステーションなごみ
相談支援センターなごみ
地域活動センターくろゆり
能美地域活動センターはまかぜ
相談支援センターはまかぜ

平成 30 年度事業実績及び令和元年度に向けて

〒923-0851 小松市北浅井町 123 番地

TEL (0761) 23-7232

FAX (0761) 23-7284

E-mail : shafuku@nagomi-no-sato.or.jp

<http://www.nagomi-no-sato.com>

なごみの郷の理念

なごみの郷は、「地域で普通の生活をしつつ、未来に向かって希望の道を歩むこと」を大きな目標とします。

その目標を達成するために、なごみの郷はその名の由来通り「人の輪と心が和む場」を大切に、「一人一人が夢と希望を持って生きること」を目指して、医療・行政機関等との緊密な連携のもとに、「絶えず創意工夫を積み重ね、最善を尽くすこと」を信条とします。

基本方針

1. 人の輪、こころの和を大切にしたサービスに努めます。
2. 一人一人の権利と尊厳を守り、個人の自律及び自立を尊重することに努めます。
3. 利用者、家族、ボランティア、地域住民と一体となって推し進めます。



屋根全面葺き替え改修を行い
きれいになったなごみの郷



地域活動センターくろゆり



能美地域活動センターはまかぜ

安心、安全の住み慣れた地域づくりをめざして

平成30年度は、「地域活動センターくろゆり」の「自立（生活）訓練事業」を利用者の減少により事業休止にしてのスタートとなりました。その後、「ホームヘルプステーションなごみ（居宅介護事業）」が事業従事者要件を確保することができず10月末で休止に追い込まれる等、近年の人材不足の影響を受ける展開となりました。反面、相談支援事業は昨年同様に利用頻度が高く推移しており、「能美地域活動センターはまかぜ」においては利用登録者が増えてきており、それと共に一日の利用人数も増えて施設の手狭さを感じるほどになってきています。



施設の整備としては、将来を見据えての持続性を高めるために、県の社会福祉事業振興資金の融資を受け懸案事項であった「なごみの郷」本館屋根の全面葺き替え整備工事を行い、合わせて利用者の安心安全のための防犯カメラシステムも本館としらさぎ館に自費で設置することが出来ました。又、今後の事業基盤整備の為「能美地域活動センターはまかぜ」の施設拡張（サテライト施設）や「相談支援センターはまかぜ」の相談体制の充実を図るために能美市所有の旧保育園施設を取得し令和に向けて新たな事業所を開所する方向を示すことができました。

現在、国は認知症の親と引きこもりの子供世帯の「8050問題」、団塊世代が後期高齢者になり超高齢化社会の「2025問題」、団塊ジュニア世代が65歳以上になる「2040問題」等から「働き方改革」「医療、福祉サービス改革」「健康寿命の延伸」を打ち出してきています。それは労働力の減少と少子高齢化が現実となって押し寄せてきているからです。私達はどのように共生社会の実現に向け、自らの決定に基づき社会のあらゆる活動に参加し、その能力を最大限発揮して自己実現できるでしょうか。地域共生社会（インクルージョン）は【自助・互助・共助・公助】の連帯強化によって実現ができるかに掛かっているように思います。当法人基本方針の『利用者、家族、ボランティア、地域住民と一体となって推し進めます』が【自助・互助】の強化の必要性を示しているように思います。

なごみの郷は安心、安全の住み慣れた地域で一人ひとりが主人公になって、自分らしく生きていくことのできる社会でありたいと願っています。

これからも地域が求める将来の事業環境の整備と将来の法人を託していける人材確保や職員の個々の意識と資質向上を図っていく所存です。

今後とも地域の皆様をはじめ行政や関係機関の方々の一層のご理解とご支援をお願い申し上げます

令和元年6月

社会福祉法人なごみの郷
理事長 荒田 稔

目次

I	法人の概要	1
	1. 法人の沿革	1
	2. 施設の規模	2
	3. 組織・機構	3
	4. 関係団体の動き	4
	5. 職員構成	4
	6. 平成 30 年度 特記事項	6
II	支援部.....	7
	《就労移行支援事業、就労継続支援 B 型事業》 就労支援センターつばさ	7
	1. 事業概要	7
	2. 事業実績	8
	3. 行事等での年間活動.....	10
	4. 就労支援	11
	5. 作業の概要	11
	6. 家族交流会	16
	7. 令和元年度に向けて.....	16
	《就労継続支援 B 型事業、地域活動支援事業》 能美地域活動センターはまかぜ.....	17
	1. 事業概要	17
	2. 事業実績	17
	3. 作業概要	19
	4. 平成 30 年度の主な取り組み	22
	5. 令和元年度に向けて.....	22
	《共同生活介護事業（介護サービス包括型）》 グループホームなごみ・しらさぎ	22
	1. 事業概要	23
	2. 事業実績	23
	3. 主な日中の生活の場.....	24
	4. 利用者支援等.....	24
	5. 平成 30 年度の動向.....	26
	6. 令和元年度に向けて.....	26
	《共同生活援助事業（外部サービス利用型）》 グループホーム弥生荘	26
	1. 事業概要	26
	2. 事業実績	26
	3. 主な日中の生活の場.....	27
	4. 利用者支援等.....	27
	5. 平成 30 年度の動向.....	28
	6. 令和年度に向けて	28
	《居宅介護事業》 ホームヘルプステーションなごみ.....	29
	1. 事業概要	29
	2. 事業実績	29

《相談支援事業》 相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかぜ	3 0
1. 事業概要	3 0
2. 事業実績（相談支援センターなごみ）	3 0
3. 平成 30 年度の主な動き（相談支援センターなごみ）	3 1
4. 令和元年度に向けて（相談支援センターなごみ）	3 2
5. 事業実績（相談支援センターはまかぜ）	3 2
6. 平成 30 年度の主な動き（相談支援センターはまかぜ）	3 3
7. 令和元年度に向けて（相談支援センターはまかぜ）	3 3
《生活介護事業、地域活動支援事業》 地域活動センターくろゆり	3 4
1. 事業概要	3 4
2. 事業実績	3 5
3. 活動内容	3 6
4. 平成 30 年度の主な動き	3 7
5. 令和元年度に向けて	3 7
《地域交流推進事業》	3 8
III 平成 30 年度の決算状況	4 5
1. 資金収支計算書	4 5
2. 事業活動計算書	4 6
3. 貸借対照表	4 7
IV その他	4 8
1. 法人内全体研修	4 8
2. 研修・各種団体会議への出席	4 8
3. 関連団体への参加	4 9
4. 平成 30 年度こまつ看護学校実習概要	5 0
5. 地域貢献の一環	5 0
6. コマニー研修（事業概要） H30 年度	5 0
7. 平成 30 年度なごみの郷苦情解決第三者委員活動報告	5 1

I 法人の概要

1. 法人の沿革

平成	月	摘 要
10	12	「社会福祉法人なごみの郷」設立発起人会発足
11	8	社会福祉法人なごみの郷設立 初代理事長 廣川 俊雄氏 就任
12	4	なごみの郷本館新築 精神障害者社会復帰施設「地域生活支援センターなごみ」 「福祉ホームなごみ」「通所授産施設つばさ」開設
13	3	二代目理事長 西出 外次 氏 就任
14	4	精神障害者「グループホーム弥生荘」開設
	10	ホームヘルプサービス事業開始
15	4	なごみの郷敷地内にしらさぎ館新築 精神障害者「グループホームしらさぎ」「地域交流センターしらさぎ」 小規模通所授産施設「フレンズくろゆり」開設 レスパイトケア事業・精神障害者地域生活サポート事業開始
	8	三代目理事長 木村 正行 氏 就任
18	10	「福祉ホームなごみ」より障害福祉サービス事業「ケアホームなごみ」 に事業変更・経過的地域生活支援センター事業（小松市委託）開始 「地域生活支援センターなごみ」より 相談支援事業（小松市委託）に事業変更
19	3	相談支援事業（小松市委託）廃止
	4	「地域活動支援センターくろゆり」「相談支援センターなごみ」 「ホームヘルプステーションなごみ」開設 「通所授産施設つばさ」より「就労支援センターつばさ」に事業変更
	5	「グループホームしらさぎ」より「グループホームケアホームしらさぎ」 に事業変更
20	11	「地域活動支援センターくろゆり」より「地域活動センターくろゆり」 に事業変更・「相談支援センターなごみ」増築
	12	「地域活動センターくろゆり」改築
21	8	四代目理事長 水腰 久美子 氏 就任
	10	法人設立 10 周年記念式典開催
22	4	「グループホームケアホームしらさぎ」より「ケアホームしらさぎ」 に事業変更
	8	五代目理事長 小杉 修 氏 就任

24	3	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労支援センターつばさのサテライト事業所として開設
	8	六代目理事長 荒田 稔 就任
25	4	「能美地域活動センターはまかぜ」を就労継続支援（B型）事業と地域活動センターとして開業
	8	「相談支援センターはまかぜ」を能美地域活動センターはまかぜ内に開設
26	4	「ケアホームなごみ」「ケアホームしらさぎ」を「グループホームなごみ」「グループホームしらさぎ」に事業変更
30	4	「地域活動センターくろゆり」自立(生活)訓練事業を休止
	11	「ホームヘルプステーションなごみ」居宅介護事業を休止

2. 施設の規模

① 社会福祉法人なごみの郷	〒923-0851 小松市北浅井町り 123 番地
・敷地面積	2,415.00 m ²
・建物3棟総床面積（構造・面積 木造一部2階建て）	1,017.24 m ²
グループホームなごみ	306.19 m ²
就労支援センターつばさ	348.85 m ²
相談支援センターなごみ・ホームヘルプステーションなごみ他	160.83 m ²
グループホームしらさぎ	89.43 m ²
地域交流センターしらさぎ	104.34 m ²
ポンせん加工室	24.00 m ²
② 地域活動センターくろゆり	〒923-0863 小松市不動島町甲 22 番地
・敷地面積（甲 21 番地 駐車場含む）	339.59 m ²
・建物床面積（構造・面積 木造2階建て）	211.89 m ²
③ グループホーム弥生荘	〒923-0943 小松市育成町 18 番地
・建物床面積（構造・面積 木造2階建て）	149.63 m ²
④ 能美地域活動センターはまかぜ	〒929-0105 能美市中ノ江町と 104-1 番地
・敷地面積	1,817.50 m ²
・建物床面積（構造・面積 鉄筋コンクリート1階建て）	389.18 m ²
倉庫	32.17 m ²

3. 組織・機構

(1) 令和元年度法人の役員等名簿（平成31年4月1日現在）

役員

理事長 荒田 稔	理事 北岡 和代	理事 石山 雄一
理事 浅井 俊子	理事 村中 豊	理事 高田 茂
監事 千田 純一	監事 三上 紀美恵	—

以上理事6名監事2名

(2) 顧問

水腰 久美子	木崎 馨山	—
--------	-------	---

以上2名

(3) 評議員選任解任委員

監事委員 三上紀美恵	外部委員 細川 勝正	外部委員 新谷千代子
外部委員 高見 京子	事務局委員 瀬戸俊文	—

以上5名

(4) 評議員

中島 捷純	岡田 啓	本多 清人	若林 貴紀
新川 葉子	榊田 雅美	西野 純枝	—

以上7名

(5) 苦情受付

苦情解決第三者委員	北岡 和代	井村 千里
-----------	-------	-------

苦情解決責任者	村中 豊	苦情受付担当者	小川 久美
---------	------	---------	-------

4. 関係団体の動き

年度	摘 要
昭和 48 年	小松保健所（現南加賀保健福祉センター）管内精神障害者家族会「くろゆり会」発足
昭和 63 年	小松市不動島町に小規模作業所「くろゆり作業所」開設
平成 5 年	ボランティアグループ「くろゆり作業所を支える会」発足
平成 6 年	小松保健所のメンタルヘルスボランティア講座始まる。 ボランティアグループ「メンタルフレンズつばさ会」発足 小松市末広町に第2作業所「ワークハウスつばさ」開設
平成 7 年	小松能美こころの街づくり推進協議会開催 ボランティアグループ「みのり会」発足
平成 8 年	「ワークハウスつばさ」小松市小馬出町に移転 ボランティアグループ「こだま会」発足
平成 9 年	「小松能美精神障害者社会復帰施設法人設立準備の会」発足
平成 10 年	ボランティアグループ「ハーモニー」発足
平成 11 年	ボランティアグループ「ののはな」発足
平成 12 年	小松能美メンタルヘルスボランティア連絡協議会発足
平成 14 年	ボランティアグループ「かよう会」発足
平成 15 年	ボランティアグループ「のぞみの会」発足
平成 16 年	メンタルヘルスボランティア 8 グループを統一して、「小松能美メンタルヘルスボランティア友の会」として発足

5. 職員構成

常勤役員 1 名 職員 34 名 [常勤 18 名 (男 4 名女 14 名) 非常勤 16 名 (男 7 名女 9 名)]
有資格者内訳《重複者複数》 (平成 31 年 4 月 1 日現在)

資格内容	人数	資格内容	人数	資格内容	人数
社会福祉施設長	1 名	精神保健福祉士	11 名	社会福祉士	7 名
看護師	1 名	介護支援専門員	3 名	介護福祉士	5 名
養護教諭	1 名	ホームヘルパー	7 名	介護職員初任者研修	1 名
栄養士	1 名			他簿記・経理等	複数名

他 派遣労働者 シルバー人材センター (世話人・清掃)
業務委託先 NPO 法人えんがわ 他 (送迎車両担当、夜間世話人)

令和元年度社会福祉法人なごみの郷人員配置

平成 31 年 4 月 1 日現在

理事長	荒田 稔
所 長 (施設長)	村中 豊
支援部 部長	高田 茂、小川 久美 次長 瀬戸 俊文

<p><u>就労支援センターつばさ</u></p> <p>管 理 者 小川 久美 (兼)</p> <p><就労移行事業></p> <p>サービス管理責任者 小川 久美 (兼)</p> <p>就労支援員 金谷 葉月</p> <p>生活支援員 番 千恵子</p> <p>職業指導員 酒井真由美 (非)</p> <p><就労継続 B 型事業></p> <p>サービス管理責任者 小川 久美 (兼)</p> <p>生活支援員 北島 千裕</p> <p>職業指導員 鈴木 栄子</p> <p>中村 有紀 (非) 向井 進 (非)</p> <p>前田 信夫 (非) 泉 律子 (非)</p> <p>奥村 恭子 (非)</p> <p>顧 問 医 岡本 進 (非兼)</p> <p>厨房調理人補助 崎田 昌代 (シ)</p>	<p><u>地域活動センターくろゆり</u></p> <p>管 理 者 瀬戸 俊文 (兼)</p> <p><生活介護事業></p> <p>サービス管理責任者 西東 健太 (兼)</p> <p>生活支援員 松本 里絵 (兼) 三宅奈津子 (非兼)</p> <p>看 護 師 吉田裕美子 (非)</p> <p>顧 問 医 岡本 進 (非兼)</p> <p><地域活動支援センター事業></p> <p>くろゆり職員 兼務</p>
<p><u>グループホーム</u></p> <p><共同生活援助事業></p> <p>ーなごみ・しらさぎー</p> <p>(介護サービス包括型)</p> <p>管理者兼サービス管理責任者 瀬戸 俊文 (兼)</p> <p>生活支援員 富樫 尚子 小島 優衣</p> <p>世 話 人 村中 豊 (非兼) 武田 春江 (非)</p> <p>中山 裕子 (非)</p> <p>打越 賢一 (非) 近藤 悠 (え)</p> <p>丸谷明太郎 (シ)</p> <p>ー弥生荘ー</p> <p>(外部サービス利用型)</p> <p>管理者兼サービス管理責任者 瀬戸 俊文 (兼)</p> <p>世 話 人 猿橋 弓子</p>	<p><u>能美地域活動センターはまかぜ</u></p> <p><就労継続 B 型事業></p> <p>管理者兼サービス管理責任者 高田 茂 (兼)</p> <p>生活支援員 西出 加代 (非兼)</p> <p>職業指導員 江端 安代 (兼)</p> <p>前出 真 (兼) 杉森 早希 (兼)</p> <p>橋本庄哉 (非) 藤岡 哲哉 (非)</p> <p><地域活動支援センター事業></p> <p>はまかぜ職員兼務</p>
<p><u>相談支援センターなごみ</u></p> <p><小松市委託障害者相談支援事業></p> <p>管 理 者 小川 久美 (兼)</p> <p>相談支援専門員 堂前 美春</p> <p>相談支援専門員 宇野 結貴</p>	<p><u>相談支援センターはまかぜ</u></p> <p><能美市・川北町委託障害者相談支援事業></p> <p>管 理 者 高田 茂 (兼)</p> <p>相談支援専門員 海老原 綾</p> <p>相談支援専門員 土山 信英 (非)</p>

(兼) 兼務 (非) 非常勤 (え) NPO 法人えんがわ (シ) 小松市シルバー人材センター

6. 平成 30 年度 特記事項

固定資産の取得

・大型修繕

8月 なごみの郷本館屋根全面葺き替え改修工事 11,880,000 円
(石川県社会福祉事業振興資金より 8,000 千円借入)

・車両の取得

2月 普通乗用(トヨタノア 8人乗り)はまかぜ車両入替 (軽自動車→普通自動車)
698,000 円

・機械器具の取得

9月 なごみの郷本館・しらさぎ館 防犯カメラシステム 637,200 円
12月 つばさ作業用 ガス高速オープン 442,800 円

・助成事業

I 平成 29 年度(30 年度助成) NHK 歳末助け合い運動助成事業(石川県共同募金)
より 14 万円の助成を受けて整備を行う

地域活動センターくろゆり 屋外物置、小農具 他 141,127 円

II 平成 30 年度北國愛のほほえみ基金(社会福祉法人北國新聞厚生文化事業団)より
2つの事業に各 5 万円の助成金を受けて個々に整備を行う

地域活動センターくろゆり 利用者用デスクトップ PC 67,802 円
能美地域活動センターはまかぜ 介護用ベット 2 台(休憩室) 100,000 円

以上



防犯カメラ導入しました!



新たに導入した車両

II 支援部

《就労移行支援事業、就労継続支援B型事業》

就労支援センターつばさ

1. 事業概要

就労支援センターつばさは、就労移行支援事業（定員6名）と就労継続支援B型事業（定員14名）の多機能型20名で事業を展開した。

（1）就労移行支援事業

（サービス内容） 一般就労を希望する利用者に対し、作業を通して、知識・能力の向上を図り、ビジネスマナーを身につける訓練と働くための基礎力がつくよう支援等を実施する。

個別支援計画を作成し、その進捗状況に応じて職場体験等を組み合わせ、地域の就労支援機関等と連携を図り求職活動を行い、目標達成できるよう支援する。

（定員） 6名

（利用料） 500円/日（個人の所得によって上限がある）

（サービス提供日時） 毎週月～金曜日（午前8時30分～午後5時まで）
販売会、行事、訓練実習等により土・日・祝日有り

（利用期間） 24ヵ月

（訓練内容） 菓子製造、喫茶、厨房、委託事業等の作業で就労に向けての疑似体験での訓練、ビジネスマナー、履歴書の書き方、面接の練習、一般就労に向けてのプログラム等の訓練

（その他） 送迎サービス、配食サービス等が利用できる

（2）就労継続支援B型事業

（サービス内容） 企業等への雇用に結びつかなかった人や、一定年齢に達している人に対し、通所により就労や生産活動の機会を提供する。

また、一般就労に必要な知識、能力が高まった利用者を次のステップに向けて支援する。

（定員） 14名

（利用料） 586円/日（個人の所得によって上限がある）

（サービス提供日時） 毎週月～金曜日（午前8時30分～午後5時まで）
販売会、行事等により土・日・祝日有り

（利用期間） なし

（作業内容） 菓子製造、喫茶、厨房、委託事業、エコステーション管理

（その他） 送迎サービス、配食サービス等が利用できる

2. 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労移行事業（定員6名）	3人	1人	5人	5人	4人	4人
就労継続（B型）（定員14名）	20人	20人	20人	23人	23人	25人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度平均	前年度
4人	5人	4人	4人	3人	2人	44人	3.7人	2.6人
25人	25人	25人	24人	24人	26人	280人	23.3人	22.1人

②市町村登録者数

市町村名	小松市	能美市	加賀市	その他	合計
延人数	250人	28人	23人	23人	324人
構成比率	77%	9%	7%	7%	100%

③年代別登録者数（平成31年3月31日現在）

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0人	4人	3人	2人	3人	4人	16人
女性	1人	3人	5人	0人	2人	1人	12人
計	1人	7人	8人	2人	5人	5人	28人

(2) 延利用者・利用率の推移

①就労移行支援事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延利用者	35人	14人	37人	11人	43人	47人
開所日数	22日	22日	23日	24日	24日	21日
稼働率	25.0%	8.3%	26.7%	8.3%	30.0%	36.7%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
59人	60人	47人	49人	46人	36人	484人	40.3人
25日	25日	20日	19日	20日	20日	265日	22.1日
40.0%	40.0%	40.0%	43.3%	38.3%	30.0%	30.4%	

②就労継続支援（B型）事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
延利用者	280人	292人	283人	324人	349人	317人
開所日数	22日	22日	23日	24日	24日	21日
稼働率	90.7%	95.0%	87.1%	96.4%	103.6%	107.9%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
408人	378人	331人	303人	324人	347人	3,935人	327.9人
25日	25日	20日	19日	20日	20日	265日	22.1日
116.4%	108.0%	118.6%	114.3%	115.7%	124.3%	106.1%	

（3）平均工賃の推移

①就労移行支援事業

単位：円

支給月	4月	5月	6月	特別賞与	7月	8月	9月	10月
総支給額	34,374	4,608	0	10,800	497	7,305	5,915	25,818
平均工賃	17,187	4,608	0	5,400	497	1,826	1,479	8,606

11月	12月	年末賞与	1月	2月	3月	年度末賞与	合計
30,278	28,140	18,000	30,879	30,482	23,150	12,900	263,146
10,093	9,380	3,000	10,293	10,161	11,575	2,150	9,074

②就労継続支援（B型）事業

単位：円

支給月	4月	5月	6月	特別賞与	7月	8月	9月	10月
総支給額	196,320	198,085	208,385	167,600	228,262	211,479	202,131	206,420
平均工賃	10,907	10,426	12,258	7,981	10,376	10,070	8,422	8,601

11月	12月	年末賞与	1月	2月	3月	年度末賞与	合計
211,650	183,293	260,900	174,533	175,124	174,727	135,300	2,934,209
8,466	7,969	10,436	8,311	7,297	7,280	5,412	11,157

3. 行事等での年間活動

生活のリズムを整え気分転換と交流の機会をもち社会性の幅を広げることを目的として活動している。

開催月	活 動 内 容	開催場所	参加人数
毎月開催	カラオケ交流（年間4回）	なごみの郷	平均名5名
4月	花見	小松サン・アビリティーズ	8名
	委託作業とたこ焼き&やきそば交流会	なごみの郷	9名
5月	朝顔の種をポットに入れる	なごみの郷	2名
6月	朝顔の種を植えにいこう！	小松市役所前	2名
7月	防災訓練	小松市防災センター	12名
	夢や 作品展へいこう！	福祉の店 夢や	7名
8月	アビリンピックのデモンストレーションを見に行こう！（喫茶研修企画）	ポリテクセンター石川	3名
	ニュースポーツを楽しもう！	なごみの郷	7名
10月	ウルトラアート展へ行こう！	いしかわ動物園	7名
	つばさ BBQ	せせらぎの郷	13名
	曼珠沙華を見に行こう！	小松芸術劇場うらら	4名
	バスハイク	白山市内	7名
11月	小松市障害者自立支援協議会 当事者会	なごみの郷	4名
	那谷寺に紅葉を見に行こう！	那谷寺	9名
12月	お楽しみ会	なごみの郷	16名
1月	初詣&新年会	なごみの郷	12名
	お餅を食べる会	なごみの郷	15名
3月	春の日の食談会	北浅井町公民館	7名
	防災訓練 「地震・防災について」	なごみの郷	16名

平成30年度は、6月より事業紹介のチラシを作成し相談支援事業所等を中心に積極的に周知に努めた。結果登録者数4月に23人から始まり年度末には28人となり、総延利用者数では平成29年度4,343人に対し平成30年度4,419人と増数でした。平均工賃支給額については、就労継続支援事業B型10,216円から今年度11,157円の増になりました。引き続き担当制を行いきめ細やかな支援を行い、生活リズムを整え社会性の幅をひろげることを目的に行事・販売活動を積極的に行いました。

（文責：小川）

4. 就労支援

平成 30 年度は障害者職業センター、ハローワーク、障害者就業・生活支援センター、相談支援専門員、ご家族、行政・医療機関等と連携をとり計 16 名の就労支援を行った。内訳として、平成 30 年度特別支援学校卒業予定者就労アセスメント実習評価 6 名、施設内作業に従事し職業準備性を高める訓練者 4 名、就労継続 B への移行 4 名でした。就労移行支援特別プログラムは、ハローワーク同行、個別 SST、企業見学、就労支援実践セミナー、合同面接会の同行支援を行った。また、就労準備として（株）リクルートの Knowbe ソフトを導入し、ビジネスマナーや PC 操作を PC を使って学ぶことが出来た。

就労支援員は、南加賀就労支援強化連絡会就労支援勉強会、障害者雇用連絡会議、特別支援学校就労セミナー、就労支援に関わる研修等の参加を通して情報交換を行い知識の向上に努めた。今年度の課題であった職場体験の受け入れ企業を開拓し一般就労に向けての模擬体験の機会を設け実体験から学び具体的な支援については、チャレンジワークを行う準備の企業見学を行った。

(令和元年度に向けて)

就労支援プログラムに関して、チャレンジワークなどで職場体験を行い、就労模擬体験をすることで一般就労にむけて支援していく。そして障害者就業・生活支援センター、ハローワーク等と連携し一般就労できるよう支援プログラムを明確化することでまず一般就労の実績をあげる。

(平成 30 年度就労移行登録者就労数)

単位:人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
登録者数	3	2	5	5	4	5	4	5	4	4	3	2
就労者数 就職者+就労定着支援者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(文責：金谷)

5. 作業の概要

(1) 菓子製造販売部門

(平成 30 年度の主な動き)

・菓子加工

平成 30 年 6 月より、小松市産の農林水産物を使用した加工食品に認定される『こまつもんブランド商品』として小松産コシヒカリを使用した『いりがし(三色白米・きなこ味・しょうゆ味・ゆず味・生姜味・玄米)』と『弁慶ぼんせん(えび、のり、トマト)』が認定された。イチオシ「こまつもん」に認定された『いりがし』や『弁慶ぼんせん』の周知に努めた。

・出張販売、企画販売の動き

今年度引き続き小松市や企業のイベント、他事業所等のイベントに参加し自主製品の PR に努めた。今年度は、昨年度に比べ販売会への参加は減少したが、新しく企業からの委託販売や年末年始のお歳暮セットの企画販売、6 月に「雨上がりキャラバン隊」を企画し営業販売を行った。

その結果作業量の確保ができ安定して工賃を支給することができた。また今年度も小松市・能美市内の保育園に雛いりがしのチラシを配布し注文を受け納品した。

(文責：北島)

<注文>

注 文 者	注文数
寺町曳山 いり菓子まき	450
社会福祉法人 松寿園	89
合計	539

<出張販売会>

開催月	販 売 会 内 容	開催場所
年 5 回	小松市役所販売会	小松市役所
6 月	なごみ祭	なごみの郷
	県メンタルヘルスボランティア総会	白山市福祉ふれあいセンター
7 月	広坂ファーマーズマーケット	金沢市役所前
	キッズフェスタ	小松市民センター
	第 14 回小松市公民館フェスタ	小松市民センター
8 月	コマフェス	コマニー株式会社
	小松市民病院棟 夏祭り	小松市民病院
9 月	福祉ふれあいフェスティバル in こまつ 2018	小松ドーム
	スマイル木場潟 2018	木場潟
	明峰駅開業 30 周年 記念事業式典	板津中学校 体育館
10 月	小松大学 学園祭(青松祭)	小松大学
	憩いの森 秋の祭典	小松市憩いの森
11 月	北浅井町公民館祭り	北浅井町公民館にて
	第 65 回小松市社会福祉市民大会	小松市民センター

<委託販売>

開催月	販 売 会 内 容	開催場所
1 月	コマフェス@東京事務所	コマニー株式会社 東京事務所
	(えびポン・のりポン・グリーンポン)	
3 月	NOPPOKUN 春のツナガル・マーケット	NOPPOKUN 駐車場
	(えびポン・のりポン)	

<企画販売>

6 月 雨あがりキャラバン隊 (いりがし注文 1 個 : 100 円)

コマニー株式会社、クラスター株式会社 967 個

11 月 かにかにキャラバン (ギフトセット : 1,200 円) 33 セット

3 月 雛いりがし注文 (いりがし注文) 40g : 100 円、13g : 70 円、200g : 300 円

注 文 者	注文数	注 文 者	注文数
利用者、個人	94	能美市保育園(個人を含む)	85
小松市保育園(個人を含む)	64	合 計	243

(令和元年度に向けて)

- ・『いりがし』『ぼんせん』が小松市のイチオシ小松産「こまつもん」の商品として認定証を頂きました。今後小松産の食材を使用した安心・安全なお菓子として販路を拡大します。また、需要に合ったパッケージの見直しを行い、販路拡大を目指し利用者の方に満足して頂ける作業量の提供と工賃向上に努めます。
- ・社会情勢を注視し、消費税増税を見据えた適切な価格設定で販売し、利用者に安定した工賃を提供します。
- ・働きやすい作業環境の提供と衛生環境の見直しを行い。菌体検査等も引き続き行き安心安全な商品を提供します。

(文責：小川)

(2) ダイニング部門

・喫茶

(平成 30 年度の主な動き)

喫茶ミーティングを月 1 回開催し、喫茶従事者で意見交換している。作業で困っていることややってみてみたいことを話し合い、喫茶従事者とともに新しいことにも取り組んだ。

また、アビリンピックに喫茶サービス競技が新しく出来たことでそのデモンストレーションを見学に行った。普段の接客を振り返りながらいいことを作業に取り込むことでさらに接客サービスの質の向上に努めた。

シフォンケーキは加賀市で生産している「山の中卵」を使用した高級シフォンケーキの試作を行った。しかし、鶏の状態により常に卵を購入することが難しいことがあった。定期的にシフォンケーキを製造していくために、毎週火曜日に製造した。そして、季節ごとのデザートを限定販売した。

(令和元年度に向けて)

- ・シフォンケーキを定期的に製造し、喫茶内での販売や販売会で販売していく。
- ・アンケートを実施し、軽食系の要望が多く、喫茶従事担当者が出来るようなマニュアル作りをし、軽食メニューを増やしていく。
- ・地域交流の場として喫茶ウッディを利用して頂けるよう PR に努める。

(文責：金谷)

つばさ作業・行事風景



喫茶：商品提供



バーベキュー美味しかった～♪



厨房：ご飯盛付け



皆でスイカ割り！えーい！

・給食配食弁当部門

(平成 30 年度の主な動き)

通常の配食以外に、11 月に苗代・蓮代寺地区社会福祉協議会より高齢者向けの配食弁当 113 食、春の日の食談会で弁当 78 食の注文があった。

新規利用者の方が増え、弁当の希望者多数により館内弁当が増大した。昼食平均も前年度より 5.3 人アップした。

月 1 回の厨房作業ミーティングでは、衛生面の強化や安全面・作業手順の確認等を行った。10 月には南加賀保健福祉センターより講師を招き就労支援センターつばさの利用者及び職員を対象とした第 16 回の食品衛生講習会を行い、特に衛生面の徹底を図った。また顧客満足度向上のため昼食(給食・弁当)利用者のアンケート調査を 3 月に行った。

(令和元年度に向けて)

- ・今年度も地域の必要な方へ弁当を配食する。弁当注文には個別に(高齢者用等・価格は相談可)対応する。
- ・厨房の現場が作業従事者にとって安心して作業に取り組めるよう環境を整える。必要な利用者には、個別で作業内容や時間を考慮し対応する。
- ・月 1 回厨房作業ミーティングを行う。
- ・月 1 回厨房内の害虫駆除(ゴキブリ、ネズミ)を実施する。
- ・南加賀保健福祉センターから講師として招き、食品衛生講習会を年 1 回実施する。
- ・年 1 回昼食利用者へのアンケート調査実施。結果等を食事提供に活かし顧客満足度の向上を目指す。

(文責：番)

昼食販売実績推移表

	28 年度	29 年度	30 年度
給食	1,917 食	1,706 食	1,628 食
館内(弁当)	3,015 食	4,392 食	5,608 食
くろゆり	1,753 食	1,262 食	1,016 食
はまかぜ	1,400 食	1,473 食	1,493 食
夢や	369 食	440 食	540 食
こまつ看護学校	571 食	438 食	403 食
南加賀保健福祉センター	291 食	136 食	83 食
その他(一般)	2,051 食	1,777 食	1,663 食
合計	11,367 食	11,624 食	12,434 食

昼食平均提供数	49.7 食	47.8 食	53.1 食
---------	--------	--------	--------

(3) 委託作業

〈小松市からの委託〉

- 4月 納税課より口座振替依頼書の4つ折を11,000部請負った。
- 5月 ふれあい福祉課より小松市内の240町内会の数種類の書類、ポスター、世帯数分のパンフレットを仕分けて紐でしばる作業を請け負った。

〈企業からの委託〉

山岸紙器(株)の箱折り、(株)東栄工業からラミネート、パソコン入力作業等を請け負った。

〈古紙リサイクルステーション〉

小松市との委託契約を更新し「古紙リサイクルステーション3号店」の管理運営を行った。昨年度より少し取扱量が減少したが、取り扱えないリサイクル品や一般ゴミの放置、古着の物色等の処分や整理整頓の為だけの作業が週1回増える事となった。

年間を通して市役所のエコロジー推進課と連携してマナー違反の対応をしたが状況が改善されることは無く、地域の方々へ周知する方法が今後の課題となった。

古紙リサイクルステーション取扱量

種 類	平成 29 年度	平成 30 年度
段ボール・牛乳パック	7,610 k g	7,820 k g
新 聞	7,600 k g	7,090 k g
雑誌・チラシ	17,430 k g	17,020 k g
合 計	32,640 k g	31,930 k g

〈アクリルタワシ〉

編みの作業従事者が増え、徐々に個数を増やしている。

〈リサイクル分別〉

- ・なごみの郷館内の缶・ビン・ペットボトルを毎週火曜日と金曜日に分別を行い月に1回「サービスセンターあしだ」へ運搬している。

〈令和元年度に向けて〉

- ・小松市より委託されている“古紙リサイクルステーション3号店”の利用マナーを小松市と連携して周知徹底を図りながら運営管理を行う。
- ・委託作業は、作業従事者が増え限られた作業スペースのなかで安心して作業に従事できるような環境を整える。また利用者のストレングスを生かした作業が提供できるよう支援する。

(文責：北島)

平成 30 年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	給食	喫茶	菓子	アクリル たわし他	リサイクル 分別	エコステ 清掃	その他の 委託	合計
収入の部計①	6,030,790	721,355	1,484,876	30,325		580,000	136,239	8,983,585
(29年度収入)	5,681,815	753,410	1,602,625	55,246		480,000	85,475	8,658,571
材料費								
材料仕入高	3,870,837	250,094	693,837	13,106			7,712	4,835,586
労務費								
利用者工賃	1,415,673	374,486	622,368	74,709	51,000	271,650	209,069	3,018,955
外注加工費								0
経費								
福利厚生費	41,256							41,256
消耗品費	172,643	18,182	49,685		420		10,232	251,162
水道光熱費	201,032		28,880					229,912
通信運搬費	694		35,227				820	36,741
修繕費								0
雑費			3,193					3,193
租税公課	134,018	21,373	32,997	715			21,167	210,270
支出の部計②	5,836,153	664,135	1,466,187	88,530	51,420	271,650	249,000	8,627,075
(29年度支出)	5,769,944	637,043	1,809,625	79,260	51,000	271,568	190,479	8,808,919
余剰金①-②	194,637	57,220	18,689	△56,357	△51,420	308,350	△114,609	356,510

6. 家族交流会

日時：平成 30 年 2 月 16 日（土）午前 10 時から

場所：社会福祉法人なごみの郷 地域交流室

ご家族の参加人数は 8 名でした。まずは、‘つばさ’の現状と職員の紹介を行いました。座談会では、「(その話は)うちも同じ」や「聞きたいことを(他の家族から)聞いて良かった」「普段つばさで何をしているのか分からなくて、聞いて良かった」とざっくばらんに話しました。普段誰に聞いたらいいのか分からないことから日々の悩みや嬉しかったことなど話されていました。また職員も普段会うことが少ないご家族と交流する機会をもつことができ充実した時間を皆さんと過ごすことが出来ました。

7. 令和元年度に向けて

‘安心・自信・回復’をモットーに、利用者が継続して作業ができるメンタルと身体の健康を維持していけるようきめ細やかな支援をします。また利用者の‘つよみ’を生かすことができる作業の提供と自主製品の特性に合わせた販路を拡大することで利用者の満足できる作業時間の提供と工賃向上を目指します。そして共生社会の一歩として地域のイベントや人と人がつながっていく活動に積極的に参加することで、地域福祉の向上に貢献できるよう地域と繋がっていきます。

(文責：小川)

《就労継続支援B型事業、地域活動支援事業》

能美地域活動センターはまかぜ

1. 事業概要

能美地域活動センターはまかぜは、就労継続支援B型事業（定員 20 名）・地域活動支援センター事業（定員 10 名）を行う事業所として6年目を向かえた。昨年に引き続き各関係機関と連携し就労・生活等の自立に向けた支援に取り組むと共に、地域の方々に障がいを理解していただけるよう努力する。

(1) 就労継続支援B型事業

- (サービス内容) 心身面で一般就労に困難さを抱える方に、福祉サービスにおける就労・生産活動などの機会の提供と知識・能力の向上、一般就労に向けての必要な支援をする。
- (定員) 20名
- (利用料) 1日 571円（個人の所得によって上限がある）
- (サービス提供日時) 月～金曜日（午前9時～午後5時まで）
- (利用期間) なし
- (作業内容) 印刷業務：名刺、年賀状、機関誌、チラシ類、封筒 他
 内職業務：梱包作業、箱作業、封詰め作業、部品仕分け 他
 自主製品：カブッキー・動物シリーズぼち袋 他
 施設外就労：清掃作業
- (その他) 昼食・送迎サービス

(2) 地域活動支援センター事業（能美市・小松市委託事業）

- (サービス内容) 心身面で日常生活に不安を抱える方に創作、余暇活動相談などを通じて、その方らしい地域生活への活動を支援する。
- (定員) 10名
- (利用料) 4時間以下 265円 4時間を超えて6時間以下 344円
 6時間を超えた場合 403円
- (サービス提供日時) 月～金曜日（午前9時～午後4時まで）
- (利用期間) なし
- (内容) 生活相談、創作・余暇活動（パソコン、レク行事〔カラオケ食事会、散策など〕）、生産活動、又ほっと一息の居場所としても活用
- (その他) 昼食・送迎サービス

2. 事業実績

(1) 登録者の推移

①人数

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続支援(B型)(定員20名)	38人	39人	39人	40人	40人	41人
地域活動支援事業(定員10名)	4人	4人	3人	3人	3人	3人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度平均
42人	41人	41人	43人	43人	42人	489人	40.8人
4人	4人	4人	4人	4人	4人	44人	3.7人

②市町村登録者数

市町村名	能美市	小松市	その他	合計
延人数	352人	155人	23人	530人
構成比率	66.5%	29.2%	4.3%	100%

③年代別登録者数

平成31年3月31日現在

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0人	5人	7人	8人	10人	3人	33人
女性	0人	0人	2人	5人	2人	0人	9人
計	0人	5人	9人	13人	12人	3人	42人

(2) 延利用者・利用率の推移

就労継続支援B型事業

開所月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者数	398人	407人	396人	398人	393人	356人
開所日数	21日	22日	23日	22日	25日	21日
稼働率	94.8%	92.5%	86.1%	90.5%	78.6%	84.8%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	年度平均
433人	412人	390人	380人	388人	403人	4,754人	396.1人
26日	23日	22日	21日	21日	22日	269日	22.4日
83.3%	89.6%	88.6%	90.5%	92.4%	91.6%	88.6%	

(3) 平均工賃の推移

単位：円

支給月	4月	5月	6月	特別賞与	7月	8月	9月
総支給額	202,818	190,592	207,768	391,051	184,634	184,770	164,231
平均工賃	6,761	5,956	6,702	11,173	6,367	6,371	5,132
支給人数	30	32	31	35	29	29	32

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度末賞与	年度平均
218,827	285,104	271,331	210,100	216,571	244,202	698,640	
6,252	8,910	8,479	6,003	6,370	6,783	17,466	7,945
35	32	32	35	34	36	40	38.5

平成 30 年度の新規登録者は 13 名、登録終了者は 8 名（サービス事業変更 5 名、その他 3 名）であった。随時見学・体験を受け入れ、各関係機関と協働し利用者のニーズに沿った利用に応えられるよう努めた。

（文責 高田）

3. 作業概要

（1）印刷部門

（平成 30 年度の主な動き）

- ◇名 刺－ 例年時期の各関係機関への印刷作業従事者同行の営業に加え、6 月にも再度営業を行い、新規の営業先を開拓し営業を積極的に行った。その結果、能美市、小松市、小松市民病院、他関係機関の方から例年以上の注文を頂いた。
- ◇年賀状－ カタログ作成に 8 月からとりかかり、10 月初めに各所に営業を行った。見た目をわかりやすくするためにカタログ内容の改善も行った。新規の営業先を増やし、カタログを例年以上の数を配布したため、前年度を上回る受注数となった。
- ◇ぼち袋－ カブッキーのぼち袋は小松空港の「空の駅」や「うらら」などで販売を行った。動物ぼち袋は川北町から献血用の粗品としても納品させて頂いた。
- ◇その他－ 小松市よりイベントチラシ、能美市より JDD パンフレット、日本赤十字社献血粗品作り、イベントチラシ、ヘルプカードの作成、パープルリボンの作成、川北町より自殺予防啓発ミニチラシ・粗品づくり、メンボラ友の会より会報、小松市特別支援教育振興会機関紙、北浅井町公民館報、苗代・蓮代寺地区福祉たより、なごみの郷事業概要、封筒などを受注印刷した。さらに能美市献血粗品と川北町の自殺予防啓発粗品で新しくメッセージカードを作成し粗品として納品させて頂いた。また新規作業を開拓するために地域の学校、機関などにも営業に出向いた。

（令和元年度に向けて）

今後もお客様の多様なニーズにこたえることができるよう、利用者のパソコン操作スキルの向上、商品作成のスキルアップを目指していきたい。そのためにも利用者が様々な作業に従事する機会を増やし、出来る事を増やすことで自信をもって作業に取り組めるようにしていきたい。また利用者から意見を聞く機会を増やし、皆が作業に従事しやすいよう環境を整えることに力を入れ、今年度も職員、利用者双方の力と知恵を合わせ、工賃・作業量の向上を目指していきたい。それに加え、新しい自主製品の開発にも取り組んでさらなる販路拡大を目指していきたい。

（文責 前出）

項 目	29 年度	30 年度	項 目	29 年度	30 年度
年賀状	9,346 枚	11,919 枚	会報・機関誌	9,632 枚	10,000 枚
名刺	15,640 枚	18,440 枚	北浅井町公民館報	4,400 枚	4,455 枚
ぼち袋セット	650 個	479 個	JDD パンフレット	1,200 枚	1,300 枚
チラシ・パンフレット類	8,525 部	5,591 部	なごみの郷事業概要	180 部	100 部
川北町自殺予防グッズ	2,100 個	3,000 個	なごみ通信	2,165 枚	2,840 枚

(2) 内職部門

(平成 30 年度の主な動き)

◇ J A 小松市

J A 小松市より委託を受け「マイルドトマトカレー」、「ヘルシートマトカレー」、「プレミアムトマトカレー」、「竹の子ごはんの素」の 4 種類のレトルトパウチ箱詰め作業を行った。職員による検品に加え、利用者による作業ごとの検品も重視することでよりよい商品の提供を図った。さらに個々の得意不得意を捉えた上でなるべく得意な作業を続けることで生産能力の向上を図った。

内職納品数

商品名	納品数	
	29 年度	30 年度
マイルドトマトカレー	25,594 個	38,622 個
ヘルシートマトカレー	3,419 個	3,172 個
プレミアムトマトカレー	2,425 個	1,200 個
竹の子ごはんの素	8,674 個	6,285 個
納品総数	40,112 個	49,279 個

◇ コマニー (株)

コマニー (株) より、委託を受け「S L - ポールウワドメ」、「S L - ポールシタドメ」、「S L - MF カナグ」、「P L - ポールウワドメ」、「P L - ポールシタドメ」5 種類の作業を行う。利用者にも検品をしてもらい、自分の行った品物を一緒に確認することで、よりミスのない作業を心がける意識づけを図った。

内職納品数

金具名	納品数	
	29 年度	30 年度
S L - ポールウワドメ	780 個	680 個
S L - ポールシタドメ	880 個	836 個
S L - MF カナグ	2,352 個	2,016 個
P L - ポールウワドメ	1,160 個	1,160 個
P L - ポールシタドメ	1,240 個	1,180 個
納品総数	6,412 個	5,872 個

◇ (有) 前田ケース

今年度はケーキ Box の箱折、袋入れの作業を行った。同じ商品を引き受けたことで作業効率も良くスムーズに作業に取り組むことができた。納期に間に合わせるために進捗管理をして、利用者の作業に対する意識やモチベーションの向上につながった。また、個々の特徴に合わせて作業を割り振り、よりストレスなく作業に取り組むことで生産能力の向上を図った。

◇三和物産

前年度から三和物産㈱より委託を受け、葬儀用品の作業を行う。アメニティセットや骨上箸といった内職作業を年間通して多くの作業量を請け負うことができ、利用者の作業意欲と工賃向上の主軸となり、利用者が満足できるような量を提供することができた。

(令和元年度に向けて)

J A小松市、コマニー(株)、(有)前田ケース、(有)ADポイント、桃宝食品(株)、三和物産(株)からいただける作業に取り組み、各取引先との連携・協力を密にし、より信頼をもっていただけるよう正確な検品や早期の納品などのニーズに応えることを努力していきたい。また、作業量が増加したことで利用者の生産能力向上のために、作業準備時間短縮などの作業能率を上げる環境づくりを重視するとともに、目標量と実績を見える化することで作業に対する意識・意欲の向上を図りたい。

(文責 杉森)

(3) 施設外就労

(平成30年度の主な動き)

◇特別養護老人ホーム ボニジュール根上苑〔入浴清掃作業〕

利用者の工賃と一般就労等に向けたスキルを向上させるため、施設外就労への取り組みを行った。年間を通じて作業にしっかりと利用者が入ることができた。また、より丁寧な清掃を作業時間内に終えるよう、自己点検を行い良質な清掃作業となるよう取り組んだ。

(令和元年度に向けて)

継続的に利用者が安定して従事し、作業の質向上と従事日数が増えていくよう今後も支援する。また施設外就労に取り組む従事者数を確保し、新たな施設外就労への取り組みもしていきたい。

平成30年度作業部門別収支内訳書

単位：円

科目名	その他	印刷	J A	ボニジュール	コマニー	前田ケース	三和物産	他 内職	合計
収入合計①	209,795	2,868,001	481,430	177,500	137,113	299,760	949,997	211,111	5,334,707
当期材料	110,670	1,379,637	9,828	0	0	0	0	0	1,500,135
利用者工賃	32,675	1,877,141	304,456	161,250	100,960	269,742	818,296	106,119	3,670,639
消耗品費	0	540	0	0	0	0	0	0	540
外注加工費	0	0	0	0	1,230	0	11,629	39,221	52,080
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
租税公課	4,018	71,258	9,421	4,475	3,731	8,960	0	3,920	105,783
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支出合計②	147,363	3,328,576	323,705	165,725	105,921	278,702	829,925	149,260	5,329,177
余剰金①-②	62,432	△460,575	157,725	11,775	31,192	21,058	120,072	61,851	5,530

4. 平成 30 年度の主な取り組み

- ・地域への障害福祉の理解、啓発の一環として、今年度も「ぼくらの街フェス in 能美」や「能美市ボランティアフェスティバル」など地域活動に参加した。また「根上地区日常生活全域会議」企画において、精神障がい者への理解の取り組みとして、地区の民生委員の方々などに対して、地域で生活する当事者の生活のしづらさなどの説明と当事者の方の発表を行い、参加者に対して障がい理解への一助となった。また当事者の方も発表を通して地域で生活する上での自信、役割を感じられる機会となった。
- ・市行政、市社会福祉協議会、南加賀保健福祉センター、相談支援事業所等と連携して、一步を踏み出せない障がい者、引きこもりの方などへのニーズに応えるため、相談支援機能、地域活動支援センター機能などを活用し地域社会に繋げるための支援を行った。
- ・週 1 回勉強会として SST、グループワークや、就労セミナーなど一般就労に向けた活動への参加を通して、利用者の社会性の幅を広げる活動を行った。
- ・年間を通して行事、余暇活動を取り入れ日々の生活の潤いや他の方々との親睦を深め、仲間意識、企画力、社会性を高められるよう利用者が実行委員になり季節行事を毎月実施した。

5. 令和元年度に向けて

基本方針 一 思いやりの心を第一に利用者に寄り添う専門的なサービスを提供し、利用者が安心して豊かな生活が送れる活動を進めながら、仲間づくりの場とお互いが研鑽し成長しあえる活動を行っていきます。又、障がい者福祉の向上の視点から能美市の「我が事丸ごと」の地域作りの一役を担います。

重点実施事項

- ① 利用者の工賃向上と作業の満足度を向上させるため、特性にマッチングした作業の工夫、新たな作業メニューを獲得し、多様な就労ニーズの要望に応え支援します。
- ② 行政、関係機関、相談支援事業所と連携して、一步を踏み出せない障がい者、引きこもりの方などへのニーズに応えるため、地域活動支援センターの機能などを活かし支援します。
- ③ 利用者同士の交流や家族への支援など、抱える課題など共有していけるよう、行事や交流会（当事者発表など）、勉強会などの充実を図ります。
- ④ はまかぜサテライト事業所（山口町）の開設により、現事業所と共同しながら地域の障害者の就労環境の充実を図ると共に、障がい者の地域包括の一役を担う拠点としての将来の整備を進めます。

（文責：高田）

はまかぜ作業・行事風景



印刷：パソコン入力作業



内職：箱折作業



今年もクリスマス会楽しみましょう！！

《共同生活介護事業（介護サービス包括型）》

グループホームなごみ・しらさぎ

1. 事業概要

（目 的）共同生活援助事業は、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。

<グループホームなごみ>

（定 員） 10名

（家 賃） 月額 28,000 円（但し、電気水道代及び食事代は、自己負担）

※家賃助成制度あり

<グループホームしらさぎ>

（定 員） 6名

（家 賃） 月額 23,000 円（但し、電気水道代及び食事代は、自己負担）

※家賃助成制度あり

<共通>

（利用料） 区分と所得に応じて各自異なる。

（共益費） 入浴代、洗濯代、共通利用部分電気代等 月額 3,000 円

※2月より、月額 2,000 円に変更

（食 事） 基本的には自炊。（必要に応じて世話人、生活支援員が支援する）

また、希望すれば、月～金の昼食、夕食は、給食サービスが利用できる。

（駐車場代） 月額 1,000 円（なごみの郷駐車場利用者、自転車 2 台目から）

2. 事業実績

年代別利用者内訳

単位：人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0	0	0	4	2	5	11
女性	0	0	0	0	2	2	4
計	0	0	0	4	4	7	15

平成 31 年 3 月 31 日現在

利用状況

平成 30 年度グループホームなごみ・しらさぎの利用状況

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
入 所	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—
退 所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
月末利用者数	13	13	13	13	14	15	15	15	15	15	15	15

グループホームなごみ定員 10 名、しらさぎ定員 6 名。平成 30 年 4 月 1 日時点で、なごみ 8 名、しらさぎ 5 名、計 13 名。8 月に病院より 1 名入居し、9 月に自宅より 1 名入居した。退所者は居らず、平成 31 年 3 月 31 日現在 15 名の入居者となっている。

3. 主な日中の生活の場

(平成 31 年 3 月 31 日現在)

・就労継続支援事業B型	5名
・病院 OT と就労継続支援事業B型との併用	1名
・生活介護事業	2名
・地域活動支援事業	2名
・病院デイケア	1名
・一般就労	1名
・該当なし	3名

4. 利用者支援等

1) 行事及び活動

①地域交流等

- ・北浅井町内会の町内一斉清掃の日に利用者皆で、なごみの郷館内の一斉清掃に参加している。
- ・年 2 回、9 月と 3 月に防災訓練を行っている。9 月は消防署職員より、消火器の使い方
の指導を受け、3 月は消防署より火災の DVD をお借りして日々の火災予防について
の話し合いを行った。

②利用者間交流

- ・ゴールデンウィーク中にランチ会として、ハヤシライスとポテトサラダを皆で調理
して食事会を行った。
- ・夕食サービスは年 2 回、利用者の希望も取り入れた特別メニューの日を企画して、
今年度は中華料理のオードブルと刺身定食を楽しんだ。
- ・平日 16 : 30～利用者同士の交流を図るため、「フレンズの会」を行っている。

(フレンズの会の内容)

憩いの中に集まって歌を唄ったり、トランプや将棋などのゲームを行っている。時
にはストレッチや近所をウォーキングするなどの軽い運動も取り入れている。

2) ミーティング

毎月 1 回、定例でグループホーム利用者全体ミーティングを行い、行事等のお知らせや共同生活を行う上でのルール等を皆で話し合っている。今年度は、健康について
をテーマにして話し合いを行った。

月	種別	内 容
4	定 例	タクシーチケットの更新手続きのお知らせ。市の集団健診の推奨。宿直体制 の変更について。法人全体のゴールデンウィークの予定と帰省の確認。防災 訓練のふり返り。参加者：11 人
5	定 例	緊急時用のまもるっくの設置の説明。北浅井町町内一斉清掃について。作業 停電のお知らせ。なごみ祭前の草むしりと窓ふきのお願い。参加者：12 人
6	定 例	ゴキブリ団子の配布。防犯カメラの設置について。屋根の張り替え工事のお 知らせ。消防設備点検のお知らせ。節電のお願い。健康についての話〈歯の 健康〉。今月の清掃場所〈居室の床〉。参加者：12 人

7	定例	GHの決まりごとと30年度版の配布。GH入居希望の体験者について。青葉会の当事者発表会のお知らせ。健康についての話〈熱中症について〉。今月の清掃場所〈居室床のワックスがけ〉。参加者:13人
8	定例	共有部分のワックスがけのお知らせ。お盆の体制について。ゴミの分別について。今月の清掃場所〈エアコンフィルター〉健康についての話。〈姿勢について〉参加者:13名。
	臨時	消耗品の紛失や、GH玄関開けっ放し状態についての問題について話し合い。安全強化のため、全館防犯カメラの設置のお知らせ。参加者:10人
9	定例	消防訓練とそのふり返り。消耗品の紛失事案について。ふれあい福祉フェスティバルの開催のお知らせ。ゴミの捨て方、分別のお願い。参加者:13人
10	定例	食堂の利用時間について。インフルエンザ予防接種のお知らせ。トイレを汚した場合の対処について。コインランドリーの使い方のおさらい。家族懇談会の開催のお知らせ。今月の清掃場所〈台所、排水口、トイレ〉。健康についての話〈イライラ解消呼吸法〉。しらさぎ利用者M〈日曜消耗品の共同購入について〉の話し合い。参加者:14人
11	定例	下駄箱、傘立ての不用品の処分について。インフルエンザの予防、補助金の説明。脱衣場の暖房の使用について。GHの決まりについて、再度のお願い。今月の清掃場所〈床掃除〉しらさぎ利用者M〈しらさぎ備品の購入代金について〉参加者:15人
12	定例	家族懇談会の開催お知らせ送付について。消防設備点検のお知らせ。共有部分の年末大掃除の日程について。年末年始の法人全体の体制について。今月の清掃場所〈すす払い、換気扇、エアコンフィルターの確認〉健康についての話〈入浴の効果〉。参加者15人。
1	定例	BSアンテナ、及び、居室ドアの点検のお知らせ。インフルエンザ、ノロの注意喚起とマスク着用のお願い。なごみ祭の余興について意見交換。健康についての話〈感染症の予防について〉参加者14人。
2	定例	防災訓練のお知らせ。浴室利用の決まりについて確認とお願い。市民病院職員の研修のお知らせ。春の日の食談会開催について。今月の清掃場所〈台所、排水口、トイレ〉健康についての話〈ストレッチ〉参加者15人。
3	定例	防災訓練の実施とふり返り。館内喫煙所の閉鎖のお知らせ。厚労省が公表している受動喫煙に関する資料の掲示について。自転車の交通マナーの注意喚起。今月の清掃場所〈床〉参加者:15人

3) 個別支援

①日常生活の支援

- ・生活リズムを整えるための支援（朝の声かけ、1日の過ごし方の確認等）
- ・買物支援（生活に必要な物の購入の仕方等）
- ・金銭管理（福祉サービス利用支援事業の利用、生活費等の使い方の支援等）
- ・清掃支援（ゴミの出し方や居室の清掃、共有スペースの清掃 ※グループホームしらさぎのみ）

- ・清潔保持の為の支援（入浴・洗濯の声かけ、身だしなみの促し等）
- ②医療に関する支援
 - ・服薬管理（服薬の確認等） ・受診同行
- ③個別面接及び相談支援
 - ・個別支援計画面接 ・日中の相談支援
 - ・21：30 まで世話人の配置を行い利用者の服薬管理及び支援や緊急時の対応
- ④家族支援
 - ・家族からの相談対応
- ⑤関係機関との連携
 - ・利用者に関わる機関や行政及び病院関係者と連携しながら支援を行っている。

5. 平成 30 年度の動向

今年度は、引き続き、定期的な居室清掃支援を行い、快適な居室環境を整えて行った。入居者が日々健康に過ごしていける様に健康診断の促しを行うと同時に月 1 回の合同ミーティングで健康についてのテーマを設け、話し合いを行った。また、皆が集える機会として休日の昼に皆で昼食を作り交流を行った。

6. 令和元年度に向けて

日常生活における居室清掃支援や健康管理等、少しずつ定着してきているため、2019 年度も継続して取り組んでいきたい。また、利用者間での交流や話し合いの場を作りながら、利用者の日常生活及び居室環境を整えていきたい。

（文責：瀬戸）

《共同生活援助事業（外部サービス利用型）》

グループホーム弥生荘

1. 事業概要

（目 的）外部サービス利用型共同生活援助計画に基づき、必要に応じて受託居宅介護サービス事業者による受託居宅介護サービスを適切かつ円滑に提供することにより、利用者が地域において共同して自立した日常生活又は社会生活を営む事ができるよう、当該利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて共同生活住居において相談、入浴、排せつ又は食事の介護その他の日常生活上の援助を適切かつ効果的に行うことを目的としている。

（定 員）4 名

（家 賃）月額 21,250 円（2 階 2 部屋）又は 26,250 円（1 階 2 部屋）

※家賃助成制度あり （但し電気、ガス、水道代は自己負担）

（利用料）所得に応じて各自異なる。

（共益費）入浴代、共通利用部分電気代等 月額 1,000 円

2. 事業実績

年代別利用者内訳（平成 31 年 3 月 31 日現在）

単位：人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	計
男性	0	0	0	0	2	2	4
女性	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	2	2	4

利用状況

定員4名のところ、平成24年4月1日から平成31年3月31日現在、入退去の動向はなく4名が入居している。

3. 主な日中の生活の場

(平成31年3月31日現在)

- ・就労継続支援事業A型 1名
- ・就労継続支援事業B型 1名
- ・病院デイケアと就労継続支援事業B型との併用 1名
- ・病院デイケア 1名

4. 利用者支援等

1) 行事及び活動

- ・育成町内会の町内一斉清掃月に利用者皆で、弥生荘館外の一斉清掃を行った。
- ・年2回(9月、3月)に防災訓練を行っている。9月は、避難訓練と消火器の使い方を説明し、訓練用消火器を使用して火消の訓練を行った。
- ・利用者と親睦を深める為の会を開催した。6月にサガミ、3月にやよい軒で食事会をした。

2) ミーティング

毎月定例で1回、弥生荘の利用者でミーティングを行い、行事や地域でのお知らせや、共同生活を行う上でのルール等を皆で話し合っている。今年度は、健康についてをテーマにして話し合いを行った。

月	種別	内 容
4	定 例	市からのがん検診のお知らせと、健康診断への促し 参加者：3人
5	定 例	GH 弥生荘契約更新。弥生荘外回り清掃の日程を決め。弥生荘親睦会を話し合う。参加者：3人
6	定 例	健康の話し(歯の健康)。弥生荘家賃(共益費追加)徴収について説明。 排水口パイプスルー、ゴミブリ団子配布。参加者：3人
7	定 例	健康の話し(熱中症、注意喚起)。夏の大掃除日程を決める。 利用者：3人
8	定 例	健康の話し(姿勢と簡単ストレッチ)。消防訓練の告知。 利用者：3人

9	定例行事	避難訓練と消火器の使い方（全員参加）。その後、振り返り。 利用者：3人
10	定例	健康の話し（イライラ解消健康法）。11月から始まるインフルエンザ予防接種についての説明。利用者：3人
11	定例	GH 弥生荘、忘年会開催について話し合い。 利用者：3人
12	定例	健康の話し（お風呂の効果）。年末年始のなごみの体制について。家族懇談会のお知らせ。利用者：3人
1	定例	健康の話し（インフルエンザ、ノロウイルス感染予防）。お正月の感想。 利用者：3人
2	定例	健康の話し（みんなでストレッチ）。インフルエンザ流行注意喚起。 利用者：3人
3	定例行事	防災訓練（火災について、DVD鑑賞）。その後、感想。弥生荘親睦会の話し合い。利用者：3人

3) 個別支援

①日常生活の支援

- ・買物支援（生活に必要な物の購入の仕方等）・金銭管理（生活費等の使い方の支援）
- ・清掃支援（ゴミの出し方や居室の清掃、共有スペースの清掃）
- ・換気扇や棚の取付け等の対応

②医療に関する支援

- ・受診同行

③個別面接及び相談支援

- ・個別支援計画面接 ・電話及び訪問支援

④関係機関との連携

- ・利用者に関わる機関や行政及び病院関係者と連携しながら支援を行っている。

5. 平成 30 年度の動向

今年度は、弥生荘が継続する事となった為、入居者間の交流の機会を設け、親睦を深めて行った。日常生活面では、清潔な浴室空間を保持できる様、清掃の仕方をお伝えする等の浴室清掃支援を月 1 回行い、利用者の自立支援及び環境美化への取り組みを行った。

6. 令和年度に向けて

令和元年度は、1 室防音工事を行う予定である。

平成 30 年度に引き続き、健康管理への声かけや、日常生活の力をつけて行ける様、利用者個々の力を見ながら支援していきたい。また、入居者同士の交流の機会も設けていきたいと思う。

（文責：瀬戸）

《居宅介護事業》

ホームヘルプステーションなごみ

1. 事業概要

(目的) 障害のある方が地域で安心して自分らしい生活を送れるように、ヘルパーが自宅へ訪問し、調理、買物、清掃、その他日常生活上の支援を行うことを目的とする。

事業内容

(身体介護) 調理、洗濯、掃除、入浴介助、排泄、食事介助等本人と共にそれらの行為を行う場合

(家事援助) 家事全般をヘルパーのみで行う場合

(営業日時) 午前9時～午後6時まで(日曜日、12/29～1/3はお休み)

(利用料) 30分以上1時間未満 身体介護 388円 家事援助 189円
(自己負担金がかかる場合)

2. 事業実績

平成29年度に引き続き、小松市と能美市で居宅介護サービスの提供を行った。平成30年度開始時点でのヘルパー利用登録者数は、男性7名、女性13名の計20名だった。前年同様、調理・掃除以外に買い物、服薬確認、入浴の見守りなど支援が多様化し、訪問看護ステーションや他事業所と連携して支援するケースが多かった。

居宅介護事業は地域ニーズが強く相談事業からも新規の問い合わせがあった中、ここ数年からのサービス提供従事者(ヘルパー)の不足が影響して、平成30年10月末で法律に定める人員数不足となった為にサービスの提供を続けることが困難になり、事業休止を余儀なくされることとなりました。

今回の事業休止に当たっては利用者の方々のご理解と各相談事業所や地域の居宅介護事業所の絶大なご協力を頂いたことについては感謝している次第です。

(文責 江端)

平成30年度ホームヘルプサービスの利用状況

○月別登録状況

単位：人

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
小松市	男性	7	7	7	7	7	6	6	事業休止				
	女性	12	11	11	11	11	9	9					
	計	19	18	18	18	18	15	15					
能美市	男性	0	0	0	0	0	0	0					
	女性	1	1	1	1	1	1	1					
	計	1	1	1	1	1	1	1					
市町合計		20	19	19	19	19	16	16	—	—	—	—	—
(内休止)		1	1	1	2	2	0	0					

《相談支援事業》

相談支援センターなごみ・相談支援センターはまかせ

1. 事業概要

目的) 障害者を持たれた方やそのご家族の福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援等、必要な支援を関係機関との連携を取りながら行うとともに、虐待の防止及びその早期発見、その他の障害者等の権利擁護のために必要な援助を行う。

利用料) 無料。

利用時間) 月曜日～金曜日(土・日・祝日、12/29～1/3はお休み) 9:00～17:30

・事業の実施期間

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

事業内容

・基本相談(小松市、能美市、川北町より委託)

福祉サービスに繋がっていない障害のある方、その家族への相談業務と必要な支援を行う。

・特定相談支援

福祉サービス利用者に対し、サービス利用計画の作成を行い、サービス調整や必要に応じて支援を行う。

・一般相談支援事業(地域移行・地域定着)

精神科病院からの退院支援、施設入所施設からの対処支援、その後の地域生活が定着するよう支援を行う。

・障害児相談支援事業

サービス利用計画書の作成を行い、サービス調整や必要に応じて支援を行う。

2. 事業実績(相談支援センターなごみ)

■ 障害者相談支援事業

<利用者数>

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談実人数	62	65	66	66	65	65	67	60	59	71	68	60	774
相談件数	239	269	227	208	200	203	219	158	154	136	162	154	2,329
計画相談件数	35	38	31	36	47	37	45	35	30	40	47	40	461

<年間支援方法>

訪問	来所相談	同行	電話相談	個別支援 会議	関係 機関	その他	合計
406件	86件	101件	757件	282件	605件	98件	2,329件

<サービス等計画作成対象者>

平成 31 年 3 月 31 日現在

年齢	～10代	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	5人	5人	5人	5人	12人	12人	21人	65人
女性	3人	1人	10人	8人	9人	10人	11人	52人
計	8人	6人	15人	13人	21人	22人	32人	117人

■ 障害程度区分認定調査（小松市委託事業）

小松市障害程度区分認定調査数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1件	1件	5件	3件	3件	2件	1件	4件	5件	4件	2件	3件	34件

3. 平成 30 年度の主な動き（相談支援センターなごみ）

特定相談支援の相談者数は、サービス利用がなくなり計画相談からはずれてしまった方もいる一方で、新規ケースの依頼が多く相談者数は増加傾向にあった。今年度は小学校入学に向けて放課後等デイサービス利用の依頼相談が多く、児童の件数が増加している。また計画相談の動きとして、精神障害の方の利用が多く、毎月定期モニタリングを行っている方も多いため件数の増加につながっている。

ケースとしては、以前からも多かったが、金銭問題を抱える方の支援が増加している。障害年金と工賃のみが収入源だが、収入にあったお金の使い方が難しく、お金の使い方や管理、生活面でのサポートなどの支援も多かった。また児童の新規ケースが昨年度より増え、入学までの短期間でサービス調整などを行う必要があり苦慮した。事業所としては、精神障害の方の利用者がやはり多く、精神不安や体調不良などからくる入退院の支援やケア会議がこれまで以上に多かった。地域包括ケアシステムの構築が掲げられている中、今年度は地域包括支援センターやケアマネジャーの方からの相談依頼や計画相談のつなぎなど、昨年度以上に連携をとる回数が増えたと感じている。

<行政、他機関との連携>

相談支援専門員としての動きやケースを通しての共通理解などを深め、行政や病院、学校、他の事業所との連携を強化し、チームとして活動していけるようケース報告やケース検討を行った。また、相談支援の在り方や今後の相談支援の体制などについての話し合いを行った。

- ・毎週金曜日 ふれあい福祉課と合同でケース報告、新規ケースの依頼、情報交換
- ・小松市相談支援事業所連絡会 月 1 回
- ・南加賀相談支援事業所連絡会 年 2 回
- ・その他ケースにあわせたケア会議の出席や情報共有
- ・高齢者総合相談支援センターとの合同勉強会
- ・小松特別支援学校進路連絡会
- ・地域療養支援事業への参加

<障害者自立支援協議会>

年度目標をたてながら課題整理や年度計画達成に向けた活動を行った。

- ・全体会 年1回 5月に開催
- ・運営委員会 年4回
- ・当事者の声を聴くための仕組み作りを考える会リーダーとして出席 月1回
- ・精神障害者等地域生活支援研究会 年4回
- ・福祉つながりネットワーク出席 年2回
- ・石川県自立支援協議会ネットワーク会議出席 年2回

4. 令和元年度に向けて（相談支援センターなごみ）

障害者を持たれた方やそのご家族の、福祉や生活全般に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言その他の障害福祉サービスの利用支援など、関係機関や地域との連携を取りながら、その方が地域でよりよい生活が送れるよう必要な支援を行います。

・重点実施事項

- ① 地域生活支援拠点づくりについて、行政、関係機関との連携を行い、包括的な相談支援体制について協議します。
- ② 自立支援協議会への積極的な参加により、地域課題整理や資源開発に向けた活動を行います。
- ③ 各種研修会や事例検討会などの参加、また個々のケースを通じた連携などにより、専門職としてのスキルアップをはかります。

（文責：堂前）

5. 事業実績（相談支援センターはまかぜ）

■ 障害者相談支援事業

<利用者数>

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
相談実人数	48	38	39	38	23	27	29	26	28	25	29	25	375
相談件数	123	122	99	83	51	51	57	56	46	45	56	55	844
計画相談件数	11	10	11	10	14	12	11	18	15	12	16	9	149

<年間支援方法>

訪問	来所相談	同行	電話相談	個別支援 会議	関係 機関	その他	合計
402件	120件	66件	144件	81件	31件	0件	844件

<サービス等計画作成対象者>

平成30年3月31日現在

年齢	～10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
男性	3人	7人	12人	11人	16人	4人	53人
女性	0人	0人	1人	7人	3人	3人	14人
計	3人	7人	13人	18人	19人	7人	67人

■ 障害程度区分認定調査（能美市委託事業）

能美市障害支援区分認定調査数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1件	1件	1件	1件	3件	0件	0件	0件	1件	4件	1件	3件	16件

6. 平成30年度の主な動き（相談支援センターはまかせ）

昨年と同様にご本人を支えるご家族の高齢化が見られ、家族全体を支える支援体制の整備が求められている。そのため、介護支援専門員等との連携が必要不可欠となっていると考える。また、平成29年10月に寺井あんしん相談センターが設置され、平成30年度には障害分野と高齢分野の関係機関等が集まり、勉強会等も開催されるなどお互いの理解を深め連携を密にしている。

対人不安を持たれる方々への対応は増えており、ご本人さんからの相談もあるが、ご家族からの相談も増えてきている。ご本人さんやご家族の生活のしづらさや生きづらさは長期にわたって抱えていらっしゃる場合もあり、地域で住みやすい環境を整えていくことも支援者としての大事な取り組みとなってきている。

<行政、他機関との連携>

月1回開催される相談支援事業所連絡会にて、ケース報告や事例検討会を行う。その中で能美市の実態を把握し、課題を整理し、具体的な働きかけへとつなげていけるように行政や他事業所と話し合いを行っている。また、ご家族全体を支える体制づくりが必要となっている今、障害分野の関係機関はもちろんこと、高齢者分野の関係機関等の連携も今後強化していきたい。

<障害者自立支援協議会>

能美市では分野別連絡会として、相談支援事業所連絡会、こども連絡会、事業所連絡会（通所系、訪問系）があり、各連絡会で地域課題等を出し合い、課題に対してどのように取り組んでいくのかなど協議を行っている。各連絡会では、多方面から見た地域課題があがっている。各連絡会の取組みについては、運営会議にて報告され定例支援会議に向けて検討課題の整理等を行っている。また運営会議では地域生活支援拠点等の整備についての理解促進を図るために勉強会を開催し今後も引き続き話し合いを重ねている。そして障がいのある当事者やその家族の方々が集う機会として「思いを語り合う会」を3回開催した。地域で暮らす当事者の方や家族の方の思いを聞くことができ、次年度も引き続き開催を行う予定であるが、何回か開催をしてみたの反省点もあったので、集っていただいた方が参加しやすく話し合いがしやすい場を考えて開催をしていきたい。

（文責：海老原）

7. 令和元年度に向けて（相談支援センターはまかせ）

基本方針一 南加賀圏域の行政、社会福祉協議会、医療機関、福祉サービス事業所などと連携をとり、障がいのある方の安心した豊かな生活への支えとなり、合わせて高齢化や親亡き後を見据えた柔軟で切れ目のないサポート体制を協働しながら関係者と構築していくことで地域の社会福祉の発展向上を目指す。

重点実施事項

- ① はまかぜサテライト事業所（山口町）新設に伴い相談事業所も同所に移転開設して相談員の増員とその機能を充実すると共に、地域の障がい者支援の包括拠点として行政、関係者などと連携し地域に貢献する。
- ② 自立支援協議会や地域関係団体協議会、事例検討会等への参加を通して、困難ケースや多様な連携の必要性の中で、地域社会資源の工夫・確保や人材育成に役立てることが出来るよう専門職として発揮し活動する。

（文責：高田）

《生活介護事業、自立(生活)訓練事業、地域活動支援事業》 地域活動センターくろゆり

1. 事業概要

（1）生活介護事業（介護給付）

（目的） 日常生活をより豊かにするため、創作活動、余暇活動、生産活動の機会を提供し、必要に応じて、食事や入浴、服薬、排泄等の介助等支援を提供する。それぞれの希望をもとに個別支援計画を作成し、創意工夫をし、個別に支援を提供することを目的とする。

（定員） 12名

（利用料） 1日（区分2） 549円（区分3） 601円
（区分4） 671円（区分5） 951円
（区分6） 1,271円

（利用期間） なし

（利用区分） 区分3以上、50歳以上の方については区分2以上

（2）自立(生活)訓練事業（訓練等給付）

（目的） 自立（律）した日常生活や社会生活が営めるよう、それぞれの方に合わせた期間で目標を立て、本人の望む生活が出来るように支援を提供する。それぞれの希望をもとに個別支援計画を作成し、創意工夫をし、個別に支援を提供することを目的とする。

（定員） 8名

（利用料） 1日 751円

（利用期間） 原則として2年間

（利用区分） なし

（3）地域活動支援センターくろゆり（小松市、能美市、加賀市委託事業）

（目的） 創作活動、余暇活動、生産活動などを通じ、各個人がそれぞれの生活を豊かにし、生きがいや夢を持って生活できるように創意工夫し支援を提供すること。また、「気軽に立ち寄れる場所」としての機能を重視することを目的としている。

（定員） 若干名

（利用料） 4時間以下 265円 4時間を超えて6時間以下 344円
6時間を超えた場合 403円

(利用期間) なし

(利用区分) なし

(4) サービス内容 (各事業共通)

創作活動 畑での野菜、五七五 (俳句)、パソコン利用等
余暇利用 調理、買い物、カラオケ、体育館利用、散歩 等
生産活動 ねじの袋詰め、箱折などの内職作業 等
季節行事 初詣、花見、忘年会、年度末会 等
各種相談 金銭相談、制度相談、生活相談、医療相談・同行 等
その他 送迎サービス 昼食注文サービス、入浴・洗濯サービス(実費) 等
個別支援計画に基づき、必要に応じ様々なサービスを提供している。

2. 事業実績

(1) 登録者の状況

①月別、事業利用別登録者数の動向

単位:人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
生活介護	11	11	10	10	10	10	9	10	11	11	11	11	10.3
自立(生活)訓練	事業休止												
地域活動	11	12	13	14	14	13	13	12	12	15	15	17	13.4
合計	22	23	23	24	24	23	22	22	23	26	26	28	23.8

②市町村別事業利用別登録者数

平成31年3月31日現在

項目	小松市	能美市	加賀市	川北町	合計
生活介護	8人	2人	0人	1人	11人
自立(生活)訓練	0人	0人	0人	0人	0人
地域活動	11人	3人	2人	1人	17人
合計	19人	5人	2人	2人	28人

③年代別登録者数

平成31年3月31日現在

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0人	0人	2人	5人	2人	8人	17人
女性	0人	0人	4人	3人	1人	3人	11人
合計	0人	0人	6人	8人	3人	11人	28人

過去2、3年の自立訓練事業の利用希望者状況を踏まえ、平成30年4月1日より自立訓練事業を休止として残る2つの事業で活動した。昨年度に引き続き「くろゆり」の情報発信として、関係機関に向けチラシの配布、訪問、電話での連絡等を行った結果、問い合わせの数25件(昨年度20件)と増え、その内10名(昨年度4名)が新規登録者となった。事業変更者2名で内訳は、生活介護から地域活動支援1名、地域活動支援から生活介護1

名。登録終了者2名で内訳は、体調不良1名、一般就労1名であった。今年度は登録者及び見学者動向として就労系事業所をリタイヤされた方や発達相談センターからの紹介で地域生活支援事業として登録する方が多く、地域生活支援事業での利用希望者が多い一年でした。

(2) 利用人数の状況

単位：人

利用月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	137	135	130	124	116	90	121	135	122	117	109	129	1,465
自立訓練	事業休止												0
地域活動支援	41	40	36	64	50	51	63	36	33	44	52	81	591
利用者数月計	178	175	166	188	166	141	184	171	155	161	161	210	2,056
一日の平均利用者数	8.9	8.3	7.2	9.0	7.3	7.8	8.0	8.1	8.2	8.5	8.5	10.5	8.4

1日平均8.4人の利用となり昨年度と比較すると0.5人の増となった。稼働率は、生活介護事業49.9%、地域活動支援事業24.5%となっている。

3. 活動内容

くろゆり利用者から活動に対する希望や思いを聴き、活動や作業時間に反映していく事で活動の参加者を増やす事が出来た。又、納品時の作業単価を上げる事やH30年度から取り入れた箱折作業を希望者に対し午前午後の活動後に提供する事で工賃を多く支給する事が出来た。同時に、活動後の時間に何かしたいという思いがある方の希望に沿う事も出来た。

「くろゆり」が社会や地域との繋がりとなる様、小松能美メンタルヘルスボランティア友の会による「学ぼうさ」の活動を昨年同様、定期的に行った。開催日も月2回の開催から利用者の希望に合わせて毎週の開催となった

今年度も、地域のボランティアの方を講師として招き「五七五」の俳句作りを定期的に行った。完成した作品は、地域の文化祭の作品展示に出店する事だ。

日頃の感謝を込め、ボランティアの方を招待したイベント活動も行う事が出来、目標としていた「くろゆり」発信の活動にボランティアを招き一緒に活動に取り組む事が出来た一年となった。



きれいに色づいて、とても綺麗でした！



木場湯で散歩！疲れたので一休み

平成 30 年度人気活動ベストⅢ

ランク	活動内容	人数
1 位	年度末会	15 名
2 位	脳トレ	11 名
	活動振返り	
	春の日の食談会	
	当事者研究	
3 位	軽作業	10 名
	小旅行	
	カラオケ	
	BBQ	
	九谷焼素焼き体験	
	畑作業	
	調理教室	
	KST	

4. 平成 30 年度の主な動き

平成 28 年度から開始した中期 3 カ年計画に基づき

- ① 事業所の安定運営を目指し、「各方面に継続的にくろゆりの情報を発信する事」
- ② 登録者に対し、これまで以上に過ごしやすい場所になる為、「健康で笑顔のある生活が送れるよう体調の安定や生活リズムを整える事」
- ③ 地域交流・地域貢献となるくろゆりを目指し、「メンタルヘルスボランティア友の会・利用者家族等、社会や地域との繋がりを感じる事の出来る場を作る事」

以上の 3 つの取り組みを行った。

5. 令和元年度に向けて

登録者の状況に合わせた利用者主体の支援や活動等を通して行い、これまで以上に利用者と地域との繋がりが持てるくろゆりとなるような取り組みを行いたい。

これまで通り生活介護事業と地域生活支援事業の充実と障害のある方の思いや希望に添った新たな事業展開を模索して行く。

(文責：西東)

《地域交流推進事業》

(1) 地域交流センター及び地域交流室の活用

青葉会、くろゆり会、小松能美メンタルヘルスポランティア友の会の活動の拠点として各種行事や会議等で利用されております。その他、地域の福祉医療関係者もピア活動の場として使用する等、多目的に利用されている。

平成 30 年度地域交流センター及び地域交流室利用の推移

団体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
青葉会と利用者	1	1	2	3	2	4	3	4	2	3	6	5	36
	3	13	12	13	8	28	24	21	9	12	27	17	187
くろゆり会	1	0	1	0	0	2	2	1	1	0	2	1	11
	7	0	7	0	0	8	13	6	2	0	8	2	53
メンボラ友の会	4	4	2	6	4	8	7	11	4	5	10	11	76
	16	11	13	28	23	48	52	48	31	19	61	58	408
その他	1	14	1	8	7	16	14	17	10	3	14	14	119
	4	48	5	50	32	63	50	90	37	15	50	97	541
計	7	19	6	17	13	30	26	33	17	11	32	31	242
	30	72	37	91	63	147	139	165	79	46	146	174	1,189

上段回数：行事及び会議の回数

下段：行事及び会議の参加者数

■その他の地域福祉関係者の活動内容

1) SUGAR JAPAN はピアカウンセリングを行うグループです。生活のことや仕事のこと、病気、薬、老後のことなど幅広くみんなで話し合っています。メンバーには、当事者の方を中心に、大学教員、福祉施設の職員、病院のナースに作業療法士、ボランティアの方と幅広く参加しています。そのグループに当法人職員も平成 25 年から参加して当法人の地域活動センターしらさぎで 2 ヶ月毎に集まっています。その日のテーマを最初に決めて話し合い、時には討論会になったりして濃密な約 2 時間を過ごしています。

2) 「虐待防止委員会」取り組みに関すること

なごみの郷職員として権利擁護等の意識を高め、虐待防止につなげていくことを目的に、年 3 回委員会を開催し取り組みを行った。今年度も全職員対象に自己点検チェックリストを行い、現状の把握と虐待防止に向けた早期発見と迅速な対応を実現するアンケート調査を実施した。またアンケート結果を踏まえ平成 31 年 3 月には、虐待防止研修を実施し、虐待を起ささない職員としての責務や虐待を起ささないためにどのような取り組みが必要かを学び、具体策などについてはグループワークを行い、意識を高めた。

3) ボランティアに関すること

平成30年度も小松能美メンタルヘルスボランティア友の会の役員会（1回/2ヶ月）への出席や利用者との交流行事であるバスハイク、お茶会、春の日の食談会等へ参加し利用者ボランティアの交流に努めた。又、毎月行う友の会主催のいくつかの「学びの会」等は、利用者の「学びたい」ニーズに寄り添った企画として続けております。

— 以下、平成29年度メンボラ友の会事業報告書からの抜粋 —
メンタルヘルスボランティアとの交流行事

月	日	曜	内 容	参加者
6	2	土	<ul style="list-style-type: none"> ・第19回なごみ祭 ☆野菜切花コーナー お客さんが買われた花や野菜に名前を書いて預かり喜ばれた。例年よりお客さんが少なく売り上げがのびなかった。来年は野菜、切り花を少し減らす。会員が持参くださる菖蒲は人気商品です。利用者の方が良く頑張ってくれた。前日に値付け・ポスター・袋詰めが出来て良かった。 ☆お抹茶コーナー 学生さんが少なく忙しかった。お茶会を時間いっぱいしていると後片付けが遅くなるので時間を早く切り上げるか数を少なくする。 	友の会15名
6	18	月	<ul style="list-style-type: none"> ・おはぎの会 餅米2升を会員の寄付で頂き140個のおはぎを作った。早くから準備をして、3グループに分かれて、きな粉・あおさ・粒あんのおはぎを作った。みんなの協力で楽しく美味しく出来たあがったおはぎを一人3個づつ容器に入れ、残りのおはぎを試食した。 	利用者15名 友の会14名 職員 4名 計33名
9	10	月	<ul style="list-style-type: none"> ・みそ開き 北岡先生と田中先生が初参加して総参加者28名でした。 2月に仕込んだ味噌を参加者に分けた後、出来立ての味噌を使って「小豆汁」を作りみんなで味わった。 	利用者8名 友の会15名 職員 3名 計26名
10	23	火	<ul style="list-style-type: none"> ・バスハイク《松任のホテルランチに道の駅、美術館 ふるさと館、俳句館と小松天満宮見学》 グループ分けをしたが、じっくり見る人と早く見る人がいてまとまらなかった。 ・利用者の感想「色々な所を見ることが出来てとても楽しかった」「ホテルのランチが美味しくて満足した」「小松天満宮でおみくじが引けて良かった」「初めて参加、合同で行って色々見て良かった」 ・参加できなかった人「仕事があったため」「途中でものくなる」「お金がなかった」「バス酔いする」「疲れそうだ」「朝が起きられない」「トイレが近い」「行事に行かないと決めている」 	利用者22名 友の会20名 職員 5名 学 生 4名 計51名

1	21	月	<p>・初釜</p> <p>初釜も利用者に喜んでいただける行事の一つです。早めに集まりお茶道具を揃えた。職員のお蔭で綺麗に掃除された2階和室を全員で準備した。お軸もお花も会員のお世話になりお客さんを迎えた。8人程一緒にお抹茶、花びら餅を頂きなごやかにゆっくりと楽しんで頂いた。ボランティア体験の二人は「楽しかった」と言われた。</p>	利用者22名 友の会16名 職員 12名 計50名
2	18	月	<p>・みそ作り</p> <p>会員5人が一人に大豆1kgを自宅で炊いて持ち寄った。手順の説明後2班に分かれ、大豆をミンサーにかけてから、塩や麴をたらいで混ぜた。その後お団子に丸めて2つの容器に詰めこんだ。それがストレス発散になるようです。みそを仕込んだ後は利用者と交流した。</p>	利用者13名 友の会11名 職員 3名 計27名
3	5	土	<p>・第19回春の食談会</p> <p>昨年と同じく、北浅井会館で金曜日に行った。今回初めて北浅井町内会長をご招待し町内と交流出来て良かった。豚汁は各会員が手分けして準備し持ち寄った。今年は肉を増やしたが、参加人数も増えており来年は野菜も増やすことにした。参加者に配るタイミングにも気を付けた。毎年漬物をくださる会員もいてうれしい事です。利用者の歌や出し物がとっても良かった。会員の着付けによる素敵な利用者7人の着物姿が会場を楽しませ、テーブル対抗のビンゴも定着して盛り上がり、炭鋤踊りで心を合わせて終了した。</p>	ゲスト 1名 利用者26名 家族会 6名 友の会26名 職員 16名 計75名

学びの会（絵手紙）

月	日	曜	内 容	利用者	友の会
4	23	月	芍薬、アネモネ、オーニソガラムを描く	3	2
5	8	月	ガクアジサイ、金糸梅、昼咲き月見草を描く	2	2
6	25	月	ガクアジサイ、こけしを描く	2	1
7	23	月	ひまわり、スワン、ライオンのぬいぐるみを描く	4	1
8	27	月	花なす、なす、トウモロコシを描く	6	2
9	28	金	カーネーション、花瓶、柿を描く	5	2
10	26	金	柿、ダイヤモンドリリーを描く	7	1
11	29	木	山茶花、西王母、ゆずを描く	4	2
12	10	月	干支の型抜きアート	10	5

1	25	金	キャベツ、ブロッコリー、ピーマンのへたを描く	5	2
2	22	金	みかん、玉ねぎ、急須、猫を描く	4	2
3	22	金	つばき（緞帳）を描く	4	1

学びの会（しゃべろっさ）

月	日	曜	内 容	場 所	利用者	友の会
4	24	火	・花見について・なごみ祭に参加します！ ・バスハイクの食事が良かった など	はまかぜ	9	3
5	8	火	・臨死の状況・神仏の意義・疑問を持つ大切さ	なごみ	3	3
6	12	火	・呼吸法と瞑想・展覧会のために絵を準備中 ・最近楽しかったこと（殆どの人がなごみ祭と答えた）	はまかぜ	8	3
7	24	火	・健康について・ゲームの話・世界情勢 など	なごみ	5	3
8	21	火	・自分の名の由来・血液型について ・笑顔の大切さ（前向きな考え方をしよう）	はまかぜ	10	3
9	11	火	・男と女の考え方・健康長寿法について ・利用者の相談 など	なごみ	5	3
10	16	火	・日頃大切にしているものや事柄について	はまかぜ	11	3
11	27	火	・疲労回復の対策・幸せを感じること ・男女関係の問題	なごみ	4	3
12	11	火	・最近一番嬉しかったこと等コーヒーを飲みながら ジングルベルを聞いて話す	はまかぜ	10	3
1	15	火	体調管理について・活動体験の二人も加わり懇談	なごみ	2	3+2
2	12	火	・好きな漢字一文字を書き、確認する。 ・悩み事の相談は誰にする？	はまかぜ	9	2
3	13	火	・世界情勢・死後の世界・生きてく事はつらい等	なごみ	4	2

+2は活動体験の人数



みんなで楽しくみそ作り！！

みそ開きのあとは、おいしいあづき汁♪



学ぼうさ (くろゆり学ぼうさ)

月	日	曜	内 容	利用者	友の会
4	5	木	百人一首、今年目標	3	1
	12	木	百人一首、プリント問題	2	1
5	10	木	個別学習 (ドリル他)	3	1
	24	木	算数 (計算の順序)	2	1
6	7	木	算数ドリル	2	1
	21	木	国語、算数ドリル	1	1
7	5	木	算数ドリル	2	1
	26	木	算数 (角度)	1	1
8	2	木	算数 (分数の計算)	2	1
	23	木	算数ドリル	1	1
9	6	木	個別ドリル	3	1
	20	木	国語ドリル	1	1
10	4	木	個別ドリル	2	1
	18	木	個別ドリル	1	1
11	1	木	算数ドリル	1	1
	15	木	算数ドリル	1	1
	29	木	算数ドリル	2	1
12	6	木	個別ドリル	2	1
	14	金	個別ドリル	2	1
	20	木	社会、理科	3	1
1	11	金	個別ドリル	3	1
	17	木	魔方陣	3	1+2
	25	金	個別ドリル	3	1
	31	木	算数プリント	3	1
2	8	金	算数プリント	3	1
	15	金	個別ドリル	3	1
	21	木	個別ドリル	3	1
	28	木	算数プリント	4	1
3	8	金	算数プリント	3	1
	14	木	個別ドリル	1	1
	22	金	個別ドリル	5	1
	28	木	個別ドリル	1	1

+2 は活動体験の人数



ほっとサロン

月	日	曜	内 容	利用者	友の会
4	21	土	・なごみ祭PRのため、テレビ小松に出演する。 ・大相撲の話題（貴乃花親方の事、遠藤,輝、炎鵬のこと）	4	3
5	19	土	・テレビ小松に収録に行った事（3回目であまく事等） ・病気で倒れて眼鏡を割った。・最後に童謡を歌う。	5	4
6	16	土	・長生きするためには喜びを分けると良い ・体を動かす事や、バタバタ体操は腰痛に良い ・利用者の言葉に以上に反応する利用者がいた。	5	4
7	21	土	・コーヒーの飲みすぎでトイレが間に合わない ・結婚14年、仕事や食事の用意に頑張っている ・バスハイクの行先は？ など	5	4
9	15	土	・食事の間隔をあけると認知症予防になる ・新しい利用者さんは一人でテレビばかり見ていて、人と交わろうとしない	3	2
10	20	土	・二手に分かれて話を聞く（仕事の話、単価は13円） ・なごみ弁当は500円なのでパンも時々食べる ・仕事は真剣にしている・紅葉の手遊びをする	2	5
11	17	土	・アオキが出来て品物が安く助かっている ・明日、弁当を113食つくる ・サロンの参加者が少なくなっているが続けられるのか？ ・最後にみんなで紅葉の輪唱をした	5	3
1	19	土	・初参加のYさんが楽しかったので、また来たいとの感想 ・今年目標など・魚編のカルタや都道府県カルタに手遊び指遊びをする。最後にお正月、母さんの歌を唄う	7	5
3	17	土	・何をしても疲れが取れず大変・編み物などを楽しんでいる ・川北に住むようになり買い物やいろいろな所へ行っている ・春の日の食談会のトン汁やおしるこが美味しかった ・最後に歌を三曲歌う	7	4+2

+2は活動体験の人数



ホテルランチ、道の駅、美術館など
充実したバスハイク



楽しくコラージュ作成♪

第19回 なごみ祭り

6/2（土）に「笑顔咲くなごみの郷、地域と共に」をテーマに、第19回なごみ祭を開催いたしました。天候にも恵まれ、たくさんの方にご来場いただき、まさに笑顔咲くお祭りとなりました。今回のなごみ祭は舟見ヶ丘保幼稚園の園児による合唱とイヴェッカベッカさんによるステージで大いに盛り上がりました。また、お楽しみ抽選会を行い、来場者の皆さんに楽しんでいただきました



舟見ヶ丘保幼稚園園児たちの元気な歌声♪



荒田理事長の開会宣言！



はまかせこれでいいの団も頑張りました！

第20回 春の日の食談会

3月1日（金）「なごみの郷」の利用者、家族会、メンタルヘルスポランティア友の会、職員総勢 78 名が一同に会し、北浅井町公民館にて手作りした温かいお食事を囲み、余興を楽しみ交流の輪を深めました。

この会は、春の訪れと共に皆の心をあったか〜してくれる大切な行事となっています。



開会のあいさつ。今年も楽しみましょう♪



美味しく楽しく食事会

III平成 30 年度の決算状況

1. 資金収支計算書

第一号第一様式（第十七条第四項関係）

法人単位資金収支計算書

（自）平成30年4月1日 （至）平成31年3月31日

（単位：円）

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	就労支援事業収入	14,000,000	14,318,292	△ 318,292	
	障害福祉サービス等事業収入	131,190,000	131,506,812	△ 316,812	
	経常経費寄附金収入	300,000	210,000	90,000	
	受取利息配当金収入	8,000	692	7,308	
	その他の収入	895,000	818,941	76,059	
	事業活動収入計（1）	146,393,000	146,854,737	△ 461,737	
	支出				
	人件費支出	95,105,000	93,047,493	2,057,507	
	事業費支出	11,366,000	10,108,187	1,257,813	
事務費支出	18,433,000	16,211,483	2,221,517		
就労支援事業支出	14,000,000	14,077,816	△ 77,816		
支払利息支出	99,000	65,641	33,359		
その他の支出		4,879	△ 4,879		
事業活動支出計（2）	139,003,000	133,515,499	5,487,501		
事業活動資金収支差額（3）=（1）-（2）	7,390,000	13,339,238	△ 5,949,238		
施設整備等による収支	収入				
	設備資金借入金収入	8,000,000	8,000,000	0	
	固定資産売却収入		0	0	
	その他の施設整備等による収入	102,000	102,000	0	
	施設整備等収入計（4）	8,102,000	8,102,000	0	
	支出				
	設備資金借入金元金償還支出	2,400,000	2,400,000	0	
固定資産取得支出	14,050,000	13,906,400	143,600		
その他の施設整備等による支出		0	0		
施設整備等支出計（5）	16,450,000	16,306,400	143,600		
施設整備等資金収支差額（6）=（4）-（5）	△ 8,348,000	△ 8,204,400	△ 143,600		
その他の活動による収支	収入				
	その他の活動による収入		0	0	
	その他の活動収入計（7）	0	0	0	
	支出				
	その他の活動による支出	50,000	0	50,000	
その他の活動支出計（8）	50,000	0	50,000		
その他の活動資金収支差額（9）=（7）-（8）	△ 50,000	0	△ 50,000		
予備費支出（10）			0		
当期資金収支差額合計（11）=（3）+（6）+（9）-（10）	△ 1,008,000	5,134,838	△ 6,142,838		
前期末支払資金残高（12）	71,691,199	71,691,199	0		
当期末支払資金残高（11）+（12）	70,683,199	76,826,037	△ 6,142,838		

2. 事業活動計算書

第二号第一様式（第二十三条第四項関係）
法人単位事業活動計算書

（自）平成30年4月1日 （至）平成31年3月31日

（単位：円）

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)
サービス活動増減の部	収益			
	就労支援事業収益	14,318,292	12,913,154	1,405,138
	障害福祉サービス等事業収益	131,506,812	137,860,563	△ 6,353,751
	経常経費寄附金収益	210,000	332,110	△ 122,110
	その他の収益	0	0	0
	サービス活動収益計（1）	146,035,104	151,105,827	△ 5,070,723
	費用			
	人件費	93,131,493	97,468,425	△ 4,336,932
	事業費	10,108,187	9,643,763	464,424
	事務費	16,211,483	15,177,546	1,033,937
就労支援事業費用	14,098,115	13,040,605	1,057,510	
授産事業費用	0	0	0	
減価償却費	13,166,538	13,555,974	△ 389,436	
国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 6,273,746	△ 6,512,169	238,423	
その他の費用	0	0	0	
サービス活動費用計（2）	140,442,070	142,374,144	△ 1,932,074	
サービス活動増減差額（3）=（1）-（2）	5,593,034	8,731,683	△ 3,138,649	
サービス活動外増減の部	収益			
	借入金利息補助金収益	0	0	0
	受取利息配当金収益	692	688	4
	その他のサービス活動外収益	818,941	552,985	265,956
	サービス活動外収益計（4）	819,633	553,673	265,960
	費用			
支払利息	70,520	104,142	△ 33,622	
サービス活動外費用計（5）	70,520	104,142	△ 33,622	
サービス活動外増減差額（6）=（4）-（5）	749,113	449,531	299,582	
経常増減差額（7）=（3）+（6）	6,342,147	9,181,214	△ 2,839,067	
特別増減の部	収益			
	その他の特別収益	0	0	0
	特別収益計（8）	0	0	0
	費用			
	固定資産売却損・処分損	1	2	△ 1
その他の特別損失	0	0	0	
特別費用計（9）	1	2	△ 1	
特別増減差額（10）=（8）-（9）	△ 1	△ 2	1	
当期活動増減差額（11）=（7）+（10）	6,342,146	9,181,212	△ 2,839,066	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額（12）	103,876,872	94,695,660	9,181,212
	当期末繰越活動増減差額（13）=（11）+（12）	110,219,018	103,876,872	6,342,146
	基本金取崩額（14）	0	0	0
	その他の積立金取崩額（15）	0	0	0
	その他の積立金積立額（16）	0	0	0
	次期繰越活動増減差額（17）=（13）+（14）+（15）-（16）	110,219,018	103,876,872	6,342,146

3. 貸借対照表

第三号第一様式（第二十七条第四項関係）

法人単位貸借対照表

平成31年3月31日現在

（単位：円）

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	81,057,729	76,648,871	4,408,858	流動負債	8,703,184	9,424,865	△ 721,681
現金預金	55,686,496	53,461,455	2,225,041	事業未払金	2,701,216	3,411,092	△ 709,876
事業未収金	23,324,716	20,654,300	2,670,416	1年以内返済予定設備資金借入金	2,300,000	2,400,000	△ 100,000
未収補助金	723,818	1,128,503	△ 404,685	預り金	61,811	65,370	△ 3,559
商品・製品	77,450	99,950	△ 22,500	職員預り金	839,036	848,403	△ 9,367
仕掛品	42,902	36,642	6,260	仮受金	17,121		17,121
原材料	492,156	496,215	△ 4,059	賞与引当金	2,784,000	2,700,000	84,000
立替金	17,887	0	17,887	その他の流動負債			0
前払費用	692,304	771,806	△ 79,502				
固定資産	84,920,349	84,180,488	739,861	固定負債	10,430,000	4,628,000	5,802,000
基本財産	55,733,614	52,607,278	3,126,336	設備資金借入金	9,650,000	3,950,000	5,700,000
土地		0	0	長期預り金	780,000	678,000	102,000
建物	54,733,614	51,607,278	3,126,336	負債の部合計	19,133,184	14,052,865	5,080,319
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	純資産の部			
その他の固定資産	29,186,735	31,573,210	△ 2,386,475	基本金	11,546,875	11,546,875	0
土地	8,798,375	8,798,375	0	国庫補助金等特別積立金	24,979,001	31,252,747	△ 6,273,746
建物	14,677,137	17,051,904	△ 2,374,767	その他の積立金	100,000	100,000	0
構築物	591,908	725,604	△ 133,696	修繕積立金	100,000	100,000	0
機械及び装置	1,945,555	817,763	1,127,792	次期繰越活動増減差額	110,219,018	103,876,872	6,342,146
車輛運搬具	1,955,716	2,457,235	△ 501,519	（うち当期活動増減差額）	6,342,146	9,181,212	△ 2,839,066
器具及び備品	953,544	1,457,829	△ 504,285				
権利	164,500	164,500	0				
その他の固定資産	100,000	100,000	0	純資産の部合計	146,844,894	146,776,494	68,400
資産の部合計	165,978,078	160,829,359	5,148,719	負債及び純資産の部合計	165,978,078	160,829,359	5,148,719

I V そ の 他

1. 法人内全体研修

月	日	対象	研修名
8	29	専門職	事例を用いた勉強会「なんでを考えてみよう」
11	18	全職員	「なごみの郷が地域で愛されるためには」
3	8	全職員	虐待防止研修

法人では、専門職としての基盤などより深い理解や組織人としての業務遂行スキルなど、そして支援の科学的な裏付けと今後の指導者としてのスキルアップの人材が求められ、日々のOJTやOFFJTと合わせ体系的に育成研修を進めている。法人内全体研修の今年度は、新卒がいなく新人研修は行わなかったが、事例を用いた勉強会では、支援における価値や倫理を深め、全体研修では、理事長より法人の今までとこれからについて話を聞き、職員間で地域に愛されるなごみの郷を意見交換し考えた。虐待研修では、虐待に陥る背景や環境を考える視点など人権を全員が意識する機会となった。次年度も必要な研修ニーズを踏まえ体系的に実施し、職員が主体的に考えていく研修を進めていきたい。(文責：高田)

2. 研修・各種団体会議への出席

月	日	研修・会議名	主催	人数
6	20～	平成30年度精神保健福祉医療担当者研修(6/20、7/4)	石川県こころの健康センター	2
7	3	食品衛生責任者研修会	小松能美食品衛生協会	2
	5～	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員(7/5～7/6)	社)石川県社協 総合研修センター	1
	10～	石川県強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)(7/10、11)	社)石川県社協 総合研修センター	1
	25～	石川県障害者相談支援従事者研修(現任研修)(7/25、8/22、23)	社)石川県社協 総合研修センター	1
9	6	精神障害者の退院後支援事業における研修会	石川県健康福祉部障害保健福祉課	1
	25～	相談支援従事者初任者研修(9/25、26、10/23、24、11/20)	社)石川県社協 総合研修センター	3
10	5	感染予防研修(10/5)	石川県南加賀保健福祉センター	1
11	9～	サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修(11/9、12/3、4)	社)石川県社協 総合研修センター	2
	19～	石川県障害者虐待防止・権利擁護研修(11/19、20)	石川県健康福祉部障害保健福祉課	1
	23～	第10回やどかりの里・人づくりセミナー(11/22～11/24)	やどかりの里・人づくりセミナー 実行委員会	1
12	19	就労支援技法講習会	石川県障害者職業センター	1
2	26	利用者個別支援計画基礎研修2日間(2/26、27)	社)石川県社協 総合研修センター	2
3	18～	相談支援従事者専門コース別研修「精神障害者支援」(3/18、19)	金沢市異業種研修会館	2

3. 関連団体への参加

平成 31 年 4 月 1 日現在

氏 名	関係団体	職名
荒田理事長	能美市自立支援協議会 認定 NPO 法人えんがわ	委 員 理 事
小川支援部長	小松市障害者自立支援協議会 ・全体会議 小松市虐待防止協議会いのちと心の部会 自殺防止対策研修会及び地域連絡会 能美市手話言語・障がい者等コミュニケーション 促進検討委員会 石川県精神障害者事業所連絡会	代 理 委 員 委 員 委 員 委 員
高田支援部長	小松市社会福祉協議会 第三次能美市地域福祉活動計画評価委員会 能美市障害者自立支援協議会事業所連絡会	評議員 委 員 委 員
瀬戸支援部次長	小松市障害者自立支援協議会 ・精神障がい者等地域生活支援研究会	委 員
猿橋 弓子	小松市障害者自立支援協議会 テーマ別検討会	委 員
金谷 葉月	南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク推進委員会	委 員
北島 千裕	南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会 小松市障害者自立支援協議会 テーマ別検討会	委 員
堂前 美春	小松市障害者自立支援協議会 ・運営委員会 ・テーマ別検討会 ・相談支援事業所連絡会 相談支援専門員協会 研修企画 日本精神保健福祉士協会石川県支部 相談支援従事者研修初任者研修 ペアレントメンター養成講座	委 員 リーダー 委 員 委 員 災害対策委員 企画委員 インストラクター
宇野 結貴	小松市障害者自立支援協議会 ・精神障がい者等地域生活支援研究会 ・相談支援事業所連絡会 石川県精神保健福祉士会 教育・研修部	委 員 委 員 委 員
前出 真	南加賀就労支援強化連絡会 ネットワーク推進委員会 南加賀就労支援強化連絡会 クローバー制作委員会	委 員
海老原 綾 土山 信英	能美市障害者自立支援協議会 ・運営委員会 ・定例支援会議 ・相談支援事業所連絡会 ・事業所連絡会	委 員 委 員 委 員 委 員

4. 平成 30 年度こまつ看護学校実習概要

社会福祉法人なごみの郷は、毎年こまつ看護学校の精神看護学実習の受け入れを行っています。H30 年度は、実習生 31 名の学生を受け入れました。精神看護学実習は、「精神に障害のある人の特徴を理解し、生活者としてよりよく生きるための看護を理解する」ことをねらいとし、「地域で生活している精神に障害のある人の看護を理解する」ことをなごみの郷での実習目標として、就労支援センターつばさ、能美地域活動センターはまかぜ、地域活動センターくろゆりの通所事業所で各グループ 2 日間の実習を行いました。メンバーの日常生活の姿や思いを知る為に、学生はメンバーと共に活動に参加し、住む・働く・生活を組み立てるという視点から地域生活を考え、精神に障害のある方への理解を深めて行きました。H30 年度は学生一人ひとりの目標を実習開始時にシートで確認し、支援者も学生のねらいを理解した上で、実習の現場で伝え、沿うことが出来るように工夫しました。

5. 地域貢献の一環

小松大谷高等学校職員研修会にて特別講義

2 月 27 日（水）に小松大谷高等学校職員研修会にて「私のメンタル、あなたのメンタル、みんなのメンタル ～ちょっと立ち止まって一緒に考えてみませんか～」をテーマに、生徒達のメンタルヘルス、先生方のメンタルヘルスなど、心の健康についての理解と、また障害福祉サービス事業所や相談支援事業所の存在を知って頂き、今後の教育に活かして頂くことを目的に 50 余名の先生方を前にお話しをさせて頂きました。私たち皆が、地域で安心して生活していくためには医療・教育・行政機関等様々な機関との連携、及びボランティア、地域住民の方々との連携が必要です。今回の様な機会を頂きながら、地域貢献の一躍を担うなごみの郷を目指して行きたいと思います。

6. コマニー研修（事業概要）H30 年度

利用者に関わりコミュニケーションを取る中で、人のこと、施設を知り、「自分にできることは何か」を考え行動し、自分たちができる貢献をする。この体験を通して、日常で自分ができる実践に繋げ、これからの貢献活動に繋げるを目指す為の研修として 7/11（水）～7/13（金）までの 3 日間、コマニー(株)新入社員 7 名が、なごみの郷にて研修を行いました。

研修を通して、「自分にできること」を見つけ、これからの地域貢献活動に活かして頂くけたらと思います。なごみの郷としても、一般企業の方との交流は新しい風でもあり、地域の方に知って頂く機会ともなります。お互いに相互作用しながら地域貢献していけたらと思います。

7. 平成 30 年度なごみの郷苦情解決第三者委員活動報告

月	訪問先	訪問内容	相談形式と人数		苦情 BOX 電話 等	計人数
4	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	9		9
5	なごみ	通常訪問	個別相談	3		3
6	くろゆり	通常訪問	グループ相談	7		7
7	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	8		8
8	なごみ	通常訪問	個別相談	3		3
9	くろゆり	通常訪問	グループ相談	8		8
10	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	8		8
11	なごみ	通常訪問	個別相談	3		3
12	くろゆり	通常訪問	グループ相談	5		5
1	はまかぜ	通常訪問	グループ相談	5	1 苦情㊦	6
2	なごみ	通常訪問	個別相談	5		5
3	くろゆり	通常訪問	グループ相談	7		7
相談人数総計 72 人（内苦情㊦ 1）						

■今年度の活動と次年度の展望

- ・平成 17 年度以来、今年度で 14 年目の活動となった。
- ・苦情解決第三者委員である田中良弘、北岡和代の 2 名で活動を行った。
- ・はまかぜ、なごみ、くろゆりへの定期訪問活動（各施設を 3 か月毎）を行った。
- ・はまかぜとくろゆりは、訪問がプログラムに組み込まれているため、来所メンバーのほぼ全員が集まるグループ相談を行い、必要に応じて個別相談を行った。
- ・重大な苦情相談はなかったが、他の入所者に関する相談があり、相談者の希望に応じて、解決方法を掲示した。
- ・次年度も、施設側の委嘱に応じて、同じ第三者委員が同様の活動を実践し、施設が提供するサービスの充実に貢献していくつもりである。
- ・なお、田中良弘 氏の活動は今年度が最終年度となった。11 年間（平成 20 年 4 月～平成 31 年 3 月）に及ぶ長期に渡る活動を称えたい。

（文責：苦情解決第三者委員 北岡）

なごみの郷
平成 30 年度事業実績及び
令和元年度に向けて

発行 社会福祉法人なごみの郷
理事長

発行日 令和元年 8 月 1 日

編集 社会福祉法人なごみの郷
〒923-0851
石川県小松市北浅井町 123 番地
TEL (0761) 23-7232
FAX (0761) 23-7284

印刷 能美地域活動センター
はまかせ
